



息
距
編

十九
二十

和装本
八七
978
10



門八波
地 978
卷 10



息距編卷之十九

宣和二年賊第四

島原記錄卷四

宣二月廿七日賊攻次第

一其頃鍋島信濃守攻口下城中... 出九... 括人... 之... 鐵炮... 者... 打... 船... 大... 船... 日... 夜... 遂... 洞... 投... 砲... 之... 打... 掛... 依... 之... 掛... 兵... 是... 行... 出... 九... 日... 來... 難... 叶... 相... 見... 不... 因... 在... 信... 濃... 守... 家... 先... 有... 人... 被... 命... 出... 九... 日... 來...

息距編

十九二十



息距編卷之十九

平賊第四

島原記録卷四

寅二月廿七日惣攻次第

一其頃鍋島信濃守攻口二城中より出丸を拵人数
 と銃置鐵炮と拵打以て鍋島大勢より日夜急送
 間銃炮を打掛る依之拵兵亦是に弱り出丸一のは来
 雖叶相見以因茲信濃守家老等と令詰合は出丸を
 乘取支より段々仕寄るに付由と評定は省伺上役
 一以て之に任其意由之則信濃守一子者在は省

合用意

一二月廿五日午刻鍋島人数百名の出立近く仕寄を付る
は自然敵は城中より伐出死に為用心體武者三百斗
竹東の陰に隠し置板敷仕寄を付る法は其の面
は敵を伺見し信濃守城を攻めやたつて我は不
相当城攻め打立者とて存しは其の物攻の解意
之より此の用上使の下を相待然とて居近
は體武者城攻の爲に是仕寄場用意を
由海法有るに其の法は城攻し倣用意を
一鍋島方より右の所より仕寄を付るは城中より鉄



炮と括り綱打掛目前にも負死人點數出るといふ
亦早豊前守若井多勢鉄炮と括り打返り同申刻城兵
亦列色お見い然所は目付柳原飛騨守職充同左馬佐
職信父子鍋島守も其の所左馬佐生年十七歳若武
者左の筋もいふお侍家人藤田信忠寺田長之清浪人
藤原七之清木上七八人といふ三九一押寄り鉄炮を打
掛敵更不進は所を左馬佐生忠城を乗る柳原左
馬原城一番守若井自刃を放若干敵を射
まぐむ父の飛騨守是を遠見し金浮幣指物左馬
佐といふ敵も打立おとすは城交早是をい

く鍋象勢は目付父子と討せし後難め河上同苗
紀伊守同甲斐守木多勢と下おし城中へ突入し三人
丸を攻取時城を不敷多出合終に防戦然に餓飢及
以民精力盡き一戦打反敵百人討死し捕鍋象勢炮
烙火矢を三丸を焼立且又浪人藤原七之清も火を城
中の家屋に放て同時焼立直二丸攻入し城兵も
粉骨と盡し依防戦早速難攻取相支迫合
一其外諸將も今日相平伊豆守陳所會合し物格
一居たり所豆お子息甲斐守輝綱来り惣攻有し由
と申す原直州を始めいぬ事ありと云有る存

門佐同義人父子は座を立く真城馳向し家人共
欠け付来ては是を美せ城に赴く水野日向守も同
美きおの人数皆追ひ押寄せたり一揆も大勢
突出しんも強を打ち美し先途にお戦いせれし
有馬勢も相勢粉骨と盡し攻入し召降城兵を
追込し首級多討取し
一鍋象勢に相攻と出し拔るとは強將皆伊豆守
に陳所立出し一人此人数を奪し一面に戦場より
と城を攻て竟進む就中細川越中守同相後守父子
大軍より本丸を攻り目付三郎左衛門は

互に法士の働令檢見細川勢降、其日圓刻、本丸は
手東の方半をとり、取大柵を据へ、九曜の紋の旗を
押立夜の明けを待て、鍋島勢も本丸をば不交、本
丸の出丸よき夜を明け、お待居、
一有る父子松倉見事立花父子、雨小笠原寺、上
使は目附衆申し、其処人数を出し、悉く曲輪を攻め
本丸斗、一も何れも明け、お攻めんとお待居申すも有る
父子先立ち、城近く詰寄、其夜急雨降、其時暫有
る雨晴し、星出、
一馬田右馬助佐攻口搦、大江口云々、難所の地、お任

寄と難成、百法事、不自由、お府と日相軍精と出
し、お屋敷討死、お不お搦、お船攻入、大江口松山を攻取
り、天守一揆、お民お数多討取、本丸責入、お人とお是
も日等、お城お付、お大に丸に陳、お明けを待居、
此時右馬助佐法臣を集、此中陳所難所、お侍
も法に、お上、又お日鍋、お之をせ、お掛懐、おふ
而、お汝、お明、お精、お出、一番、お本城、お攻取、
命を、お軽、お之、お定、お為、お志、おあ、おん、お女、お某、おに、お法、
と、阿、お家、お老、お馬、お田、お義、お他、お云、お操、お某、お老、お後、おの、お忠、お出、おに、お再、お拜、おと
賜、お先、お陳、お侍、おんと、お望、お上、お依、おて、お右、お馬、お助、お佐、お感、お悦、おし、お何、お再、お拜、

を賜り上下心と一致し、其の如く本城の一番急と心掛
一板倉に水と父内膳正人数と奉り、七口二丸一押寄
吏より本丸に向て攻寄し、時家人相田七郎右衛門の上下十
左馬つ黒江十右衛門等、一丁甲と称す、本丸の塀を越え
瀬田右衛門左衛門は忠義、本丸塀を登り、時右衛門は死す
一今日牧野侍、就板倉右近より戻り、
同廿八日午後、城に攻め入り、
一翌廿九日卯刻より、城の一日、関を切り、攻め入り、人
数上下拾二萬五千余人、切所、岩石を、し、不厭、我一城を

攻め、い、城兵、本丸の半、支、一、鉄砲を放
た、苦、茅、火を付、あ、一、投、あ、木、是、漂、子、変、と
突、出、力、戦、身、命、を、不、惜、粉、骨、と、考、え、依、て、客、易、に、難
攻、入、能、変、西、方、大、江、口、黒、田、右、衛、門、佐、の、先、陣、黒、田、義、作、同、三
左、衛、門、父、子、共、之、進、み、城、兵、を、物、の、数、を、計、り、突、き、入、り、
取、付、打、太、刀、を、拂、捨、て、三、三、三、攻、入、本、丸、於、此、右、馬、つ、佐、が
一、番、乘、り、攻、取、り、諸、人、皆、美、化、父、子、が、武、勇、を、感、ず、其、の
身、を、曉、り、火、矢、數、百、本、城、中、一、射、込、依、て、所、に、火、付
き、悉、燃、え、四、郎、時、貞、陳、所、と、燒、立、り、城、兵、亦、お、せ、い、
切、中、に、戦、ひ、死、生、不、知、切、合、居、い、

一寄手攻入、西、黒田右衛門佐忠之同甲斐守長興同
市正高改編、信濃守勝茂同、江伊守九茂同、甲斐守
直澄、細川越中守忠利同、肥後守光尚、有馬玄蕃、以豐
氏同、中務大輔忠頼、立花飛騨守宗茂同、右近水邊忠
茂、水野日向守勝成、小笠原右近大夫忠直同、信濃守長
次、有馬左衛門佐直純同、龍人相倉長門守重次同
右近重頼、寺澤兵庫、以堅高松平伊豆守、信綱同、甲
斐守輝綱、戸田左門氏鐵同、三郎四郎、柳原飛騨守
同、左衛門佐牧理、信龍、林丹波守馬場三郎左衛門松
平甚三郎、此外諸大名、使者國、事令、浪人、其數、

不知大軍夥、極難也
一板倉之水、非威、鎧、着、鎧、提、立、花、か、る、り
抽、有、九、系、入、之、嶮、此、を、付、心、攻、可、ぬ、家、人、未
山、與、信、勝、是、物、信、勝、太、田、孫、右、衛、門、大、河、内、九、左、衛、門、木
不相、能、攻、戰、不、根、及、社、大、夫、赤、羽、源、信、勝、此、自、言、一、番
宗、是、神、尾、右、衛、門、信、勝、浦、信、左、衛、門、前、魯、左、衛、門、平、井、新
五、信、勝、小、川、又、左、衛、門、大、塚、角、信、勝、木、武、右、衛、門、辰、武、信、勝、
宗、之、云、信、勝、木、作、左、衛、門、小、林、九、信、勝、石、川、市、左、衛、門、涉、井、左
兵、衛、門、木、助、右、衛、門、木、祇、右、衛、門、伊、月、次、左、衛、門、川、瀬、次、左、衛、門、
池、田、新、之、信、勝、渡、邊、伊、左、衛、門、平、井、十、左、衛、門、中、理、佐、左、衛、門、野、口、左

右衛門池田兵右衛門森甚之清成田喜左衛門村雨八郎左衛門
印具佐太夫国枝俊左衛門足曲八之清村雨弥之清相田
七郎右衛門丹羽左衛門浅井六之清黒澤十右衛門水上十
左衛門秋元弥左衛門山田右衛門木働右衛門男女小出
大和守吉英左使老武藤左太左伴三左衛門平井智由
笠原左衛門佐政信左使老常茂三右衛門木働右衛門小笠
原左衛門守使者春日佐左衛門若偽右衛門
一寄子多勢侵入依て増兵位分能防戦日未了鉄
炮志願の勝原造極大刀此働武士其揚々
紀伊郷氏木働と切殺或は生捕と日午刻と改爲

早又城中男女合之凡三万七千余人死亡之勢中城
中郎藤の張本大矢野四郎大吏討死十七歳討死寸
首細川越中守忠利の家人陳佐左衛門討捕歸陳
以後知り千名合加録
一廿七八兩日寄討死人数一千百三十六人同手原宗
六千九百五十余人手原死人兩合凡八千八拾一人此城中家宅
悉と焼拂早手原宗に記せし人数と合は輝細日記に未の討死
死千百廿七人手原七千零八人
一今夜水野日向守板倉之水陳所、身を歩及若年より
度い働今日亡父吊合戦一感入、由悉と褒美予
七度と云々名其内是より試たりトテ守多國房

刀と出さるる水則拜受し奉由禮ヲ礼謝ス

山田右衛門作近忠ノ次也

一合度高京一揆之内山田右衛門作ト云者元正集云左
衛門作譜代の武士多年宰人ト成ク居ケテ一揆亦
カクシ以城中一揆就則京城本丸打口兩打ノ内ノ人
八百余ト支配シ左衛門作ト云者元正集云左衛門作
寄シト返忠ノ次也通合者城ト攻メ右衛門作
四郎時貞ト云者小舟載セテ一揆就ノ時貞
ト生捕以忠告中云此ト云者二月十日左衛門
作方中云廿一日其ト云者合度ニ由テ約束ト云十

八日右衛門作英文ト左衛門作方ト見付ル

廿一日延列漸ク後彼英文ト見付廿一日英文左衛

門作ト云者矢文ト其後中云其ト云者廿一日英文ト

右衛門作ト云者城中者見付四郎時貞一揆ト

其時貞ト云者ト云者右衛門作近忠頭ト生捕ルト云

以九松ト云者一合度ト云者ト云者ト云者ト云者ト云者

ト云者ト云者ト云者ト云者ト云者ト云者ト云者ト云者

令不審ト云者ト云者ト云者ト云者ト云者ト云者ト云者

生捕ルト云者ト云者ト云者ト云者ト云者ト云者ト云者

忠ト云者ト云者ト云者ト云者ト云者ト云者ト云者ト云者

始は事能少届ヶ何と右衛門作を助ヶ度由彼
中於能更三月廿七日右衛門作世房子也と本丸の
大門口斜形内より城中若くと切害右衛門作ハ
繩を掛ヶ是し切害下殺し我城攻急、羅城小笠
原右近太夫家人是を生捕己右衛門作と切殺さへ
と其時及る存留つ作は、と語り左衛門佐方ハ
波のい英文を又も頼依て小笠原元相左衛門
有る於哉と右衛門作と右近太夫方より伊豆守指
上於伊豆守委細と能少右衛門作口書を致させ一命
を助ヶ江戸へ召連と返れ則右衛門作に也るあ、るい作

一原城落人し由小渡郡の村より才助三江郡の金作
有江郡の甚志此三人、者島京町におりて竹船を被
曳殺れ是、去年冬小渡郡を代官之橋武左衛門を
与害是、其後三江郡の米倉、兵糧米取、考不整
固の付を討殺ら、兵糧をも奪取重、罪科、有
、依、也

一相残れ生捕落人し皆、と引出二月廿九日原、城
焼認する一、と斬殺れ

宣二月廿七日廿八日と討死覺
一黒田右衛門佐者討死

濱田二郎清 松岡仙傳 梶川仙傳 濱田太郎清

江初鯨江長子

八田二大馬 林安馬 勝野伊馬 濱川權馬

戸田角之清 母之七馬 子飯原馬 森庄馬

大石權左馬 立花弥清 南田左馬 西良馬

同。此口方石馬 月十七人

同子貞 小川繼左馬 馬田三左馬 池田徳馬 仙口馬

筑紫當馬 井上守清 郡庄右馬 馬田馬

菅右了助 馬田太之助 竹中道徳 時田源左馬

久野四馬 北郡頼馬 小川七塔竹 杉山清馬

郎尾三馬 加藤三馬 加藤三馬 石井馬

三浦馬 大音六馬 月津馬 飯尾馬

飯尾馬 長原方馬 小川久太馬 久世馬

一柳馬 飯尾小馬 竹森馬 下見馬

柏原新馬 柏原新馬 室川馬 寺田馬

柏山市馬 松山太郎馬 近松市馬 林平八郎

毛屋馬 同查馬 室井馬 井馬

相馬十馬 松平馬 室田馬 山馬

三浦馬 井上馬 吉田馬 長馬

高良兵衛門 信理長助 買權左衛門 廣田吉十郎
 丹木甚平次 稻葉五郎左衛門 守井玄清 奥部七衛門
 國枝清三郎 藤田勘三郎 下郡源左衛門 分部金次郎
 梶原七左衛門 梶原守右衛門 柏山源三郎 山本小左衛門
 小川長五郎 田中仁助 那九右衛門 梶尾清左衛門
 室內權左衛門 篠田三郎 板波市衛門 室中勘右衛門
 横七左衛門 百餘三郎助 芹野伊左衛門 十時源三郎
 吉田七郎左衛門 薦理弥左衛門 坪田次右衛門 榑橋加三郎
 関住之郎左衛門 母里九左衛門 入江左衛門 小川權左衛門
 岡本四三郎 小西権平 島部伊左衛門 茶田七郎左衛門

大青左衛門 木全小左衛門 大青半介 丹安右衛門
 丹権左衛門 室中作左衛門 三宅源右衛門 船成冬久
 森九左衛門 原加三郎 白石権助 石我部源左衛門
 川部玄外 畠崎平九 牧平左衛門 梶原平助
 木屋瀬清 松本高郎左衛門 三好十衛門 花房十衛門
 中郡勘助 毛利玄清 花房久左衛門 同源右衛門
 麻生九左衛門 奈良平左衛門 井口牛左衛門 神儀助左衛門
 尾江九郎左衛門 石川十左衛門 勝山長助 上月小左衛門
 伊藤半左衛門 駒山次郎左衛門 森井仁左衛門 山楠吉右衛門
 神玄三郎 白石六助 伊藤清三郎 的屋角左衛門

原田三平	木屋重隆	小南忠清	山西助三郎
小川左左馬	松原孝元	山口三五郎	青木市右馬
高野三右馬	高野安元	吉田弥三清	伊藤八太夫
明石半三清	木村三右馬	中村左馬	柏口儀左馬
川口左太夫	寺田茂三清	元波清左馬	高野左馬
柏山三右馬	伊丹九郎三郎	林太郎左馬	依谷冬三清
栗生甚三清	西川九郎三清	二之巳伊助	川崎助左馬
及藤全右馬	出野茂右馬	郡土三太夫	舟橋助左馬
舟橋三右馬	山本新左馬	神吉安馬	花房権元
池田長太夫	田中固右馬	関源三清	三上玄蕃

二川権九郎	角助太夫	吉田三助	木村右三郎
木村源太馬	井原権助	竹森作元	林三右馬
松本三右馬	杉村茂三馬	出鍋権左馬	内理右馬
湯浅七郎三清	権太夫	太山三右馬	木山三郎左馬
二宮松壽	江川三右馬	石川三右馬	福島三右馬
宝珠次郎三馬	中川平右馬	山本三郎	松陰十郎
中村新元	明石三郎三馬	植口三馬	本比安三清
森弥左馬	不破三郎	舟橋市右馬	伊藤安三清
合二百十二人			

討死足輕八拾四人同子員五百廿五人 但家中廿二
同歩侍三拾五人同子員三百四十五人 又家中廿二
同馬京侍三拾四人同子員百七拾五人 又家中廿二
都合千八百六拾八人 内或百十三人死人也

異在千八百七十三人 凡五

一 黒田甲斐守者討死

安部外右衛門 野尻八助 関三郎右衛門 阪田忠重
鞍馬孫左衛門 正室大左衛門 矢崎左衛門 荒河善右衛門
松平九郎左衛門 松原加左衛門 林理右衛門 柴三九郎左衛門
重松八郎左衛門 山本九郎左衛門 太田五右衛門 伊藤孫次

子員 十六人

田代外記 高取鞆原 田代九郎左衛門 吉野五郎左衛門
銅田次右衛門 正室左衛門 菅野彌左衛門 正室権三郎
田代弥惣左衛門 今村又右衛門 玉理権左衛門 弟理具左衛門
大音弥平治 安藤南介 吉田三郎左衛門 川島右衛門
山田新左衛門 山田新左衛門 麻村十左衛門 玉吉左衛門
菅原右衛門 桑井清左衛門 下村佐左衛門 小野木孫左衛門
山田左衛門 伊藤安左衛門 池田久左衛門 百藤源左衛門
西川左衛門 石原文左衛門 宅駕伊織 桂田左衛門

象八之九	村上源左	柏山市助	结城彦左
象市郎左	畠田安九	坂波市左	尾山四郎左
仁科小左	中邨孫左	小川伊左	石原新左
高橋孫四郎	滋谷孫六	竹田長左	葛吉左
玄寄半左	田代四郎	戸波六左	小川大進
渡辺吉内	西川七郎	山田孫九	尾田右左
玄寄藏部	吉田高玄	象左左	山口半九
里井七郎	高橋四郎	伊藤三郎	明石左左
时枝新五	西川市左	佐木九郎	長井八郎
田中十右	吉玉安	海山市郎	山本五左

江田四郎	杉田文左	小堀弥左	織部七左
磯野平八	了持半左	渡辺与左	松隆三郎
象川孫左	牧谷善左	中村忠左	松橋五左
澤野九郎	大田五左	长原三郎	細井三郎
篠田又左	保五郎	三原孫左	原田十郎
曾小右	田村半四郎	村上五左	佐野三郎
井上理左	川瀬市左	白石六左	能澤伊左
西川半左	福田加右	西川加左	佐谷字左
宇本一郎	小川久左	玄寄孫左	上崎公左
山本五左	林市左	吉野安左	山井四郎

木村角左衛門	吉田百助	岡十郎	間小四郎
伊藤九左衛門	榎橋江左衛門	井上左衛門	田村源左衛門
村上弥左衛門	上田権介	新井右衛門	有山金介
堀田安左衛門	毛和知左衛門	古川五郎左衛門	長村三郎右衛門
金丸孫左衛門	宗吉左衛門	佐藤三左衛門	楊津安左衛門
中却右左衛門	池田五郎左衛門	中百右衛門	杉本大福院
榎橋孫右衛門	安藤冬郎	坂南彦	古尾五左衛門
米倉久左衛門	江差傳助	能井吉左衛門	大塚五左衛門
山村茂左衛門	吉田長右衛門	水山伴左衛門	小瀬角左衛門
皆木源左衛門	之百五拾左衛門		

死人足輕六人 同手負百三拾六人
 死人又家中侍小者九人 同手負百三拾六人

都合三百七拾七人内之拾二人死人

一黒田市正者討死

尾村半助 山東四郎左衛門 田田次郎左衛門 伊藤三左衛門

宇理三左衛門

手負

東江左衛門 竹屋三左衛門 田田九郎左衛門 木山安左衛門

尾村平太左衛門 根橋三左衛門 村瀬市右衛門 古谷十郎

吉本十三郎 三矢下十郎 足立平六 小川清左衛門

松細左衛門 月成平左衛門 成月三郎 新賀三右衛門
 林五郎右衛門 东江儀左衛門 山田忠左衛門 野中友之介
 明石半九郎 山崎七左衛門 理百五右衛門 吉川権左衛門
 古田左衛門 相之左衛門 大塚作左衛門 伊波田南庵
 吉田安之助 筑紫的左衛門 北林儀左衛門 二丹五左衛門
 萩左衛門 平理信左衛門 橋本十左衛門 忠田信左衛門
 志方安左衛門 矢野七郎左衛門 高尾左衛門
 合三拾九人
 討死又家中侍小者十人
 身原足輕又家中小者百十六人

都合百七拾一人内十六人死一本曰百七十二人内
 一編身信濃守者討死

諸岡之郎左衛門 杉町左郎左衛門 上野九郎左衛門 加賀掃部
 大島冬丸 柿原善左衛門 大石十太夫 石川十右衛門
 金丸清左衛門 堤清左衛門
 以上
 伊藤左衛門 吉井強左衛門 多良丸左衛門 花村仲左衛門
 赤富左衛門 成富權左衛門 お保強左衛門 八戸左馬
 浅井権左衛門 牛島九郎左衛門 宮田九左衛門 吉原之助左衛門

入善六右衛門 我孫子助五郎 島田子助 田中左門
 鶴田九左衛門 香月左衛門 右賀左衛門 赤目清左衛門
 赤目傳十郎 横尾三郎右衛門 角六左衛門 子孫左衛門
 巨勢兵衛左衛門 野洲六左衛門 川副久左衛門 野田八左衛門
 杉田清左衛門 堤九左衛門 杉田左衛門 野口左衛門
 豊田右衛門 三浦右衛門 坂井左衛門 田島左衛門
 杉六郎左衛門
 合三拾七人
 一編家紀伊子者討死
 田代左衛門 三浦大守 中尾左衛門

子員
 編家左衛門 富岡左衛門 大木主計 同権左衛門
 田尻左衛門 神代左衛門 神代左衛門 石川左衛門
 東家左衛門 子塚内親 尾子左衛門 古川忠左衛門
 堀野又左衛門 細野左衛門 永田清左衛門 石田内親
 山本茂七郎 神代三左衛門 三浦平左衛門 辻子左衛門
 北村久右衛門 松尾九郎左衛門 堤次左衛門
 又貳十五人 和日人数未定
 此人足輕八拾人又家中侍十五人死人也
 又家中侍子員三十四人

子員又家中下共四百八拾五人
其合七百九十九人内百十二人死人也
但信濃守に伊予
方より合ふ也

一 細越中守者討死

大北 尾藤金左衛門 平野許次平 象又左衛門 大西弥左衛門

吉岡小十郎 毛利七之侍 岩崎惣右衛門 江口才三郎

張炮以 西澤文右衛門 神足節左衛門 小川忠左衛門 弓削景次郎

波賀五左衛門 高藤権助 小坂半左衛門 野瀬吉左衛門

松岡久左衛門 貞津節左衛門 堀木玄左衛門 金田三右衛門

伊藤儀大丞 志柳小次郎 平野大丞郎 浪速源五郎

白木元四郎 遠阪関内 児玉左左衛門 福田助三郎

新賀長左衛門 井上元左衛門 甘海十左衛門 杉村十左衛門

益田右衛門 野宮権大丞 以上三拾四人 田中十郎

子員

長岡左左衛門 羽山高左衛門 明石原左衛門 平野弥次左衛門

坂寄半左衛門 小笠原備前 支那久左衛門 小笠原民部

松尾小三郎 清水石見 黒田角左衛門 三浦内近

子田五左衛門 津村右左衛門 谷忠左衛門 西郡要人

吉長加左衛門 長岡節左衛門 谷主膳 小坂左左衛門

道宗左左衛門 中島万右衛門 丹羽龜丸 本藤左左衛門

山條角左衛門 坂寄内膳 白木左左衛門 平野源太左衛門

大木織部

佐々木左馬

稻村左衛門

大島左衛門

小笠原隼人

田中文助

相國左衛門

松野左衛門

小笠原采女

右物江分也

乃任孫四郎

神津浦左衛門

清成半郎

藤本九右衛門

磯津市之侍

磯津之助

金古左衛門

藤本左衛門

竹田八之侍

竹内次郎左衛門

岩越四郎左衛門

竹内数一

清城十之郎

大正仙十代

中岩内信

大田十郎

野瀬六之侍

古川市助

山本清十郎

関佐左郎

高本共之侍

土氏善左衛門

竹岡加左衛門

坂井七郎左衛門

吉尾本之助

木本伊左衛門

柏木弥左衛門

阿部之膳

野瀬俊左衛門

杉山安之丞

友田左衛門

古安左衛門

津村九之侍

乃美新八

山村十左衛門

本三 沢源左衛門

香山与助

小村玄次郎

吉岡清左衛門

小崎小左衛門

曾任左助

熊谷左衛門

難波左衛門

村山吉之丞

市野吉左衛門

河田左衛門

杉十之侍

湯浅左衛門

住口八右衛門

中川右吉

奥村左衛門

明石九郎左衛門

太田左次左衛門

松本平左衛門

河津吉左衛門

岡田茂左衛門

乃生右平次

能谷三郎左衛門

芦田孫作

打原十三郎

関安九郎	加山岩部左衛門	田中又左衛門	山田三左衛門
石破清十郎	由屋治部左衛門	米田右左衛門	三宅勘三郎
安場三左衛門	廣瀬左之助	田中兵太夫	服部武右衛門
藤村藤左衛門	上田右左衛門	山田伸三郎	吉越市左衛門
久野右左衛門	関小平次	板寄勘左衛門	竹本左左衛門
上村勘九郎	力津市右衛門	大木勘十郎	田中新左衛門
阿部権左衛門	針本十左衛門	阿部市太夫	大塚五左衛門
敦嶋九郎	杉山清左衛門	山田七左衛門	木村仁左衛門
枝井牛左衛門	杉山長左衛門	中根左之助	兵部道重
原田十三郎	平理左之助	木村弥五左衛門	高又左左衛門

高田九郎二郎	神谷左衛門	弓削七郎左衛門	伊藤左内
永良弥左衛門	荒木善左衛門	岩佐彦作	堀口勘左衛門
藤源大左衛門	上野左平治	山田七郎左衛門	横田勘左衛門
福田三郎左衛門	敦熊九郎	山田佐左衛門	入江八郎左衛門
北村牛左衛門	荒瀬市左衛門	西村市左衛門	一宮善左衛門
森忠左衛門	水部助左衛門	同半左衛門	牧文四郎
内藤平左衛門	小林平七郎	津田九左衛門	山寄権平
石植源左衛門	樹下九郎左衛門	子村又三郎	樹下左衛門
町熊之助	磯沢左助	道家孫右郎	元田借次
伊藤権九郎	服部勘左衛門	首部氏太夫	牧助左衛門

川喜多八助	福田助之信	堀田大左	横田半左
積十之九	水百久之助	松野縫盛	後生俊之信
松田金七	野田源四郎	堀田小平治	窪田安之九
大郎助之信	藤本助助	高之権左	本庄助之信
橋本之左	平野権之九	湯浅南之左	代分別千就
矢野小三郎	相理平之信	佐野之左	堀田権助
曾根権三郎	高本源三郎	一柳七之左	大矢野三郎八
海井清三郎	住江茂左	青安之助	鈴清左之信
柳瀬牛之助	藤田平次	花房之左	大神十之信
筑紫大儀	安田藤左	山十左之信	加藤権之助

飯田何左	木下嘉右	太田十左	中島七左
小井半之信	川野権左	宇野弥左	松本久之九
松山次郎之左	高見左之信	中野少之信	森多権之信
飯田安之信	加山左之信	田沼十左	小原半左
代分別之信	村上之左	浪部之左	高平之左
友成之左	金澤之助	原忠之信	堀松七之信
加山市之信	本庄左之信	柴山又之信	石橋久之信
柏木少九郎	長谷川七之信	阿部七之信	近藤助之九
牧左門	坂浦之信	高野新之左	村上之左
横田半左	小村長之信	岩田助之九	森佐門

代分	小泉九助	大塚七之清	富田新之清	了坊	藤田	及具	明石	若村	合三百人
大竹	三池	望	栗	北	依	村	固		
山	三井	加	中	白	平	奥	飯		
志	平	尾	大	大	宗	三	飯		

死人是輕百人又家中死人付下三百四十人
 考合二千百人由二百七拾四人死人也
 一有馬主蕃以者討死

浪人討死

白井九右馬	水地助元	白井玄右馬	中井
玉田	堀	勝木	田中
市本	高	以上	

山原伊右馬
 小沼
 以上六人
 吉田

小原

尾関甚左衛門	白井外記	山井左衛門	之原甚左衛門
熊谷伊次	西澤甚左衛門	相中甚左衛門	上田伊次
上田六左衛門	下田清助	中島甚左衛門	磯野開甚
伊藤左吉	由良甚左衛門	木本半七	雲井院甚左衛門
余田甚左衛門	下田甚左衛門	井口権太夫	長沼甚左衛門
相中八郎	戸田甚左衛門	雲部八助	之原市道
大庭奉助	賀田九左衛門	山本甚左衛門	佐野権甚
三村甚左衛門	三村清八	合三十人	
同浪人等員	平田甚左衛門	三本安甚	原勘甚左衛門
			高野源甚

荒木平左衛門	津田権左衛門	板倉甚左衛門	村尾権助
馬場甚左衛門	飯清平甚	三好安元	山正十一人
同有馬内記内子員	加藤信之丞	石野依甚	井清甚
	同有子左内内子員		色藤甚
同尾関半左衛門内子員討死	井上平次郎	浅沼甚	小川信之丞
同大田勘助内子員	山内九之丞	笠権十郎	二寺在甚
同相田長左衛門内子員			白生理在甚
			福右三之丞
			山本加左衛門

同田五郎左衛門内子負

須野少左衛門 本茂左衛門

同井上太助内子負

楠生次左衛門

同松田角之清内子負

藤田勘右衛門

同本正市正内子負

藤田勘右衛門

同輕死七人

藤田勘右衛門

又家中侍小者死人五拾人子負侍小者六十九人

考合二百二拾二人内八十五人死人

一寺深兵庫以者討死

同 田島兵左衛門

并河内右衛門

古河右衛門

山崎伊次

村尾孫五郎

草場左衛門

村田道高

相原勘右衛門

同 合六人

田中兵左衛門

井上勘右衛門

三木勘右衛門

子負

同 田島兵左衛門

関隼人

山田勘右衛門

熊澤権六

竹内九郎左衛門

大村勘右衛門

山崎三左衛門

石橋茂左衛門

古橋権左衛門

大竹三郎

村瀬吉左衛門

藤井勘右衛門

明石善左衛門

与田云左衛門

新山興三左衛門

藤掛勘右衛門

小川四郎左衛門

佃少左衛門

石田勘右衛門

柳本五郎左衛門

中河市左衛門

福永勘右衛門

福田長助

山崎勘右衛門

破理吉左衛門

國府角左衛門

有浦少左衛門

福田興三左衛門

武藤次左衛門

野中権左衛門

大塚勘右衛門

安井十左衛門

石原小源左 吉田左衛門 三宅新九郎 河本教馬
 池田四郎左衛門 石川理右衛門 吉田権十郎 有浦清左衛門
 有浦孝右衛門 佐藤作左衛門 陰山平左衛門 佳賀孫左衛門
 佳賀七左衛門 田代吉右衛門 中江三右衛門 古江源三左衛門
 石川宇右衛門 久田加左衛門 九里右左衛門 并河右左衛門
 歩行者七人 足輕多負七拾人 又家中侍下共廿三人
 同浪人左負 田中六左衛門 井上四郎左衛門 三木清三左衛門
 庭田左近 吉田五右衛門 宇場七左衛門 藤掛権左衛門
 金沢孫左衛門 田中六左衛門 井上四郎左衛門 三木清三左衛門

都合三百三拾人内二十三人死人也
 一立花飛彈守者討死

小田原五右衛門 西田清左衛門 小久保清左衛門 吉田七左衛門
 留田信左衛門 明石権内 明石守左衛門 車田信左衛門
 吉田九左衛門 江上半助 遠田半介 林雄八郎
 奴苗場清左衛門 吉田右左衛門 森六右衛門 生田孫左衛門
 十却孫左衛門 高野三右衛門 高野七右衛門 堀川七郎左衛門
 番比三左衛門 小野信助 向住山七左衛門 高野源九
 松原左衛門 吉田孫左衛門 石井右左衛門 川村十左衛門

十八人

以上三十人

自頁

立花孝岐	吉城宮内	松田又左衛門	堀六右衛門
櫻井角左衛門	清田権左衛門	谷田六左衛門	十時典三左衛門
竹迎権左衛門	曾我十郎左衛門	相田五郎左衛門	曾我頼母左衛門
清田正治郎	十時久左衛門	吉田右左衛門	藤子建金左衛門
十時強平助	同内匠	直子左衛門	八郡大左衛門
森九左衛門	江守左衛門	山田清左衛門	森左左衛門
中京九郎左衛門	十時弥平次	友松右左衛門	小串藤内
林権左衛門	戸得左衛門	小田部土佐	小田部隼人

番比七左衛門	立花源左	谷川十助	小野伴大丈
古田市左衛門	原藤右衛門	長江内左衛門	安部兵左衛門
小野伴左衛門	大石伴左衛門	濱田大膳	清田又左衛門
竹迎五郎左衛門	水原右左衛門	立花左左衛門	伯耆右左衛門
渡辺羽左衛門	海老右左衛門	小野左左衛門	阪田注郎左衛門
足田右左衛門	河原市左衛門	西京右左衛門	山本勘右左衛門
佐伯藤右衛門	三郎左衛門	坂卷仁右衛門	木寄源左衛門
片平左左衛門	熊谷右左衛門	瀬戸市左衛門	中村注左衛門
相国安左衛門	中京左左衛門	笑連左左衛門	米日三郎左衛門

死人足輕又家中侍小者共九十七人

子員三百三人

一、小笠原右近大夫者討死

野原右近大夫

木瀬角左衛門

今枝長左衛門

松平久左衛門

布規權平

長谷川元

堀三郎四郎

ノ七人

子員

能子尾九左衛門

武井政元

近藤助元 中津左衛門

里部四郎左衛門

今井十郎左衛門

廣木勘左衛門 寺田伊之助

松下權左衛門

林勘左衛門

橋本三郎左衛門 木山彦二郎

山田仁右衛門

大筒源左衛門

沖田左衛門 辻加左衛門

ノ十九人

子員是輕十七人内又家中下ノ共百七十六人

死人又家中馬乘六人

都合三百廿九人内十七人死人

一、小笠原信濃守者討死

甘塚安左衛門

植村伊集

林九郎左衛門

征夷佐甚助

ノ四人

子員

小見平左衛門

平林藤左衛門

山本孝右衛門

大井半左衛門

丸山三子郎

中根弥左衛門

中根弥左衛門

林理弥左衛門

高田権左衛門

佐木園左衛門

熊本伊左衛門

山田与左衛門

永井即左馬 二木勘之丞 水町即左馬 永井藤之丞

柏木伊左馬 高木小之丞 以上拾八人

少侍拾五人 内子負五人 討死拾人

子負弓者足輕廿九人 子負又家中侍十四人

都合百三拾五人 内拾九人 討死

一 松倉長門守者 討死

一 永田三郎左馬 奥山茂之丞 曾我九之丞 村越四郎之丞

一 子負 十四人

子負 小名山三郎 右橋伊多郎 内匠

十七歳

石井權之丞 山後吉左馬 椿十之丞 佐伯長十郎

伯弥五之丞 渡邊基左馬 前原新助 安藤半助

高橋七之丞 井村助之丞 飯尾房之丞 三浦十之丞

熊野重之丞 竹村彦治郎 竹村左之丞 高橋伊右馬

杉山五郎之丞 一本大塚市之丞 辻本太助之丞 仙之丞

浪人子負 廿三人 今廿三人と云

鈴木江之丞 渡邊右之丞 曾我又右馬 安宅之丞

勝田喜助 平野才之丞 白石之丞 岩部九之丞

徳川清右丞 井上大膳 村上冬之丞 幾野左之丞

片三郎左衛門 内堀新助 村島左衛門 小山権之丞
 太田忠左衛門 大田八左衛門 上原源左衛門 町三右衛門
 矢島与左衛門 中村弥左衛門 高野五郎左衛門 森又右衛門
 又二拾四人
 同浪人討死
 森有左衛門 脇平左衛門 松田右平次 太田伊右衛門
 永井清左衛門 田永次左衛門 今橋右四郎 又七人
 足輕死人拾六人 子負又家中下 三拾六人
 長門守舍才右近 同三弥二人 是子負
 都合八拾九人内 二拾七人死人

一有馬左衛門佐者討死

谷川角左衛門 荒木勘左衛門 堀原左衛門 不破玄蕃
 波伯中左衛門 奥佐助 山田右之助 安田左衛門
 上代久右衛門 川橋勘十郎 大野佐次衛門 日井忠左衛門
 林田弥次衛門 浅海与三左衛門 三原新左衛門 小柳玄四郎
 又拾六人
 有馬九郎左衛門 同右京 有馬一郎左衛門 有馬五郎左衛門
 吉田一子 水石右馬助 林田圖書 近藤与三郎
 林田右左衛門 林田三木介 山本甚五左衛門 安徳左衛門

高屋宗清

堀源太夫

山尾正次郎

栗原主膳

本多俊太夫

久野善右衛門

藤奉行 竹中七右衛門

父系門前旗本 竹中久一

大村弾正

堀井正右衛門

川端大右衛門

神代七左衛門

長田勘左衛門

坂本十左衛門

田中助左衛門

長田安左衛門

柴田喜左衛門

大村市郎左衛門

菊池友左衛門

堀金太夫

大田尾七左衛門

大守彦左衛門

田中権助

上田次郎七

小崎茂左衛門

榎田平左衛門

堀久米左衛門

山田小大膳

池田伸左衛門

森原左衛門

田中二左衛門

馬場彦三郎

江里忠左衛門

馬場加平次

池田半左衛門

瀧美助太夫

伊藤百助

岩田十左衛門

林田大助

三原太夫

大津与左衛門

伊藤六助

荒木加左衛門

大村兵左衛門

関兵三郎

久野吉左衛門

荒木十右衛門

黒木与四郎

佐野清十郎

菅左衛門

三島傳七

米良兵左衛門

園師勘三郎

渡辺角介

林田新九

相馬一左衛門

川村弥助

浦上左衛門

浦上彦三郎

岩倉左衛門

本下孫四郎

村川治部左衛門

貝分四郎

板原長左衛門

米良藤左衛門

山崎久太夫

荒木勘十郎

馬場次左衛門

田崎金左衛門

山本行左衛門

三宅孫太夫

大野源左衛門

荒木長左衛門

堀高

小内吉左衛門

荒木小三郎

苗澤伴左衛門

浅沼四郎左衛門

大塚左助

平野吉左衛門

石田権三郎 駒木李屋 入江弥大助 平野半吉

浪人百人

足輕死人中間七人 同自負六拾八人

步侍自負拾七人 又家中死人拾五人 自負百廿二人

浪人自負

浅山内就介 松下弥右衛門 熊谷依左衛門

都合三百四拾八人 内三拾八人討死也

一水野日向守者討死

杉野又六 浪人 水原李之助 浅原舍人 渡邊十左衛門

廣田市之助 堀忠左衛門 石渡市平 深津左衛門

酒井右之助 金方安之九 室部長左衛門 片岡三左衛門

金井蘭右衛門 廣田与右衛門 皆川市左衛門 以上拾五人

自負

上田玄蕃 鈴木久之清 鈴木大膳 同半之九

有子左之助 鈴木清左衛門 中尾大守 近藤七左衛門

長井平左衛門 小倉瀬之助 上原甚右衛門 高橋孫左衛門

福田團助 神谷新左衛門 自場長左衛門 古屋五左衛門

清水六之九 廣田七左衛門 伊香金左衛門 松岡小左衛門

阪田市之助 阪田久弥 三好三郎九郎 留田助九郎

小野田五之清 磯川助之進 三原元八郎 遠山六之九

櫻村又三郎 丹羽半左衛門
 有安七左衛門 川柳権左衛門
 三池也左衛門 海井全左衛門
 石原角之進 东等七左衛門
 藤村左平次 三角兵衛
 豊田源左衛門 衣笠兵助
 遠山由藏九郎 伊藤左左衛門
 今井角之丞 竹本三郎左衛門
 津田中左衛門 今枝石九郎
 根田左弥 上田武左衛門
 江本平左衛門 浅井十左衛門
 湯川軍兵衛 川上内膳助
 岡本左衛門 川柳長左衛門
 仙石彦助 吉川由重助
 岡崎才左衛門 左園六左衛門
 廣田源九郎 岩屋能左衛門
 大原守左衛門 木田源左衛門
 浅瀬武左衛門 青木茂左衛門
 杉本弥左衛門 加藤十左衛門
 多井加左衛門 三村半平

此
 三
 條

岸田市之丞 砥村忠信門
 富田与左衛門 高田忠左衛門
 千代平左衛門 山中藤左衛門
 今枝六郎左衛門 藤井三郎左衛門
 海井小左衛門 遠山理左衛門
 深田久左衛門 脇村左平次
 竹本弥左衛門 舟橋助左衛門
 関弥次郎左衛門 神原節左衛門
 原田三郎左衛門 荒木小左衛門
 八木八右衛門 生原三左衛門
 木村平左衛門 高田源左衛門
 岩井左衛門 高田源左衛門
 伊吹彦左衛門
 小川左左衛門
 原田左助 市川助左衛門
 岩岡之膳 松本造海左衛門
 元川左衛門 松川弥左衛門
 植戸八左衛門 海井源左衛門
 牧右馬九郎 廣田一左衛門
 加藤平左衛門 上田七郎左衛門
 三浦弥左衛門 中村角九郎

中村半助	清水伊左衛門	同討手清	上田平六
高藤源左衛門	安藤右衛門九郎	加藤玄九	上田清兼
稻生角左衛門	高田門清	小枝伊左衛門	丹羽仲左衛門
小倉政之九	澤半左衛門	泷付左衛門	中山外記
东半左衛門	金方平左卫	加藤權左衛	杉本元左衛
前田左衛門	佐木五郎左	能本治部左	樋口安左衛
三村五郎左	片岡治部左	岡本安左衛	砥田弥左卫
中山角左卫	浅井左衛門	原是九郎左	樋口左衛門
中山左卫	西山半三郎	安井左衛門	
合百三拾四人			

步侍九人討死 同手負十九人
 足輕手負百七人又家中侍下
 都合四百七拾八人由百八人討死也
 一松平伊豆守者討死

手負
 浅井五左衛門 西村半三郎 野間市左衛門
 布施十左衛門 三田五郎左衛門
 玉正侍左衛門 尾崎新左衛門
 關口七左衛門 伊藤勘左衛門 遊佐半左衛門 川栖孫左衛門
 大系左源太 柴田權左衛門 竹田三郎左衛門

三橋藏人 安田吉清 林伊之助 川上五郎右馬

高藤源右馬 一廿二人

手負出付拾五人又家中付三人死人

手負足輕二人又家中付下三拾二人

都合百九人内六人死人

一戸田左門者討死

一内藤九左馬 成川市左馬 海井源右馬 森付左清

一四人

手負

岩井弥左清 村井左兵衛 泷弥左馬 井上仲馬

小出角右馬 大見又左清 稻垣新左 成沢善右馬

浅野又左馬 久保清左丈 中山武左清 野寄十左馬

小利十左馬 小野清左馬 横井武左清 以上拾五人

手負足輕拾六人

都合三拾八人内死人四人

一松平丹波守者討死

都守小左 小松市左馬 小田孫右馬 幸沢市左清

今西三郎 藤田左丈 鈴木九郎左馬 瀬口久左清

以上八人

手負

加藤主米之助 大守平左衛門 唯勤之清 中村清左衛門
 伊藤房之清 守屋賀九之助 平野太左衛門 平井市郎左衛門
 平井六左衛門 松九左衛門 三橋甚之助 石本半左衛門
 有家瀬之助 川會友之助 三橋甚之助 石本南左衛門
 吉經之助 舟越金左衛門 八拾八人
 死人足輕拾六人
 手負又家中下口上拾五人 百人十人
 都合五拾九人内三拾四人死人
 一 諸子死人 都合千百三拾五人
 同手負 都合千九百六拾七人

右二口惣人数合八千九拾余人

但寅二月廿七日廿八日兩日に分け也
 今按此等事象を以て討死一千百五拾餘人 手負六
 千八百廿餘人 考合七千九百七十餘人と 阿部守平輝
 綱日記に討死一千百廿七人 手負七千零八人 考合
 八千百三拾五人と見 諸書の載る所合はこれと
 し 其大数に差ありきと以て 意を仍て 志す所
 其他 諸事 載る所 皆 異同 あり 一 証 あり
 山田右衛門 作就 山田 中 左 衛 門

一今度吉利支丹輩、波第、俄、木三右馬門善右馬門字意
源左馬門山善左馬門と申者、廿六年以前より、天子の内大
矢野千東家と申者、数年山居致羅立所、去年丑
六月中時分より彼五人、若中廻り、天字、内上波浦
と申者、任后侍伴天連廿六年以前あり、公儀、由拂
成異國、刻彼、天連書物、廿六年以前あり、
廿六年目、尚必善人、其人、出生、幼少、附、不習、
て諸學と究め、天、市、と、野山、白簾と、立、法、人の、
る、ま、と、立、中、し、東、西、徒、雲、ら、法、人の、任、所、徒、果、應、し、
も、字、も、木、も、皆、焼、て、五、下、あり、是、も、書、異、と、天、字、

大夫、四郎と申者、引合考、尺、中、の、好、い、不、遠、る、
是、に、使、う、と、申、る、事、無、疑、法、人、の、右、之、人、の、若
中、廻、り、名、た、つ、と、申、せ、中、の、四、郎、生、年、十、六、歳、罷
成、中、の、
一、吉、利、支、丹、起、り、時、は、丑、十、月、十、五、日、以、天、地、を、動、
せ、し、不、思、儀、事、ゆ、り、出、生、の、時、皆、驚、き、り、る、事、由
又、人、の、あ、り、少、し、事、
一、彼、五、人、を、中、と、し、く、丑、十、月、十、五、日、夜、入、俄、吉、利、支
丹、と、立、歸、り、却、り、高、原、立、者、其、談、合、仕、服、し、者、其、を、勸
人、數、を、催、り、象、京、諸、所、代、友、并、他、京、し、出、來、吉、利、支

八五月六日：皆、仕廻中、城中小屋七日八日、仕廻中、
旗立中、

一九日、天草より人数貳千七百程男女共、乗中、
天草より乗、乗、船、大江に渡り、船、河を、打破り、
城、屏裏の、か、は、仕、三十挺立、関船一艘、設置

一城中、小童、男女、都合、二万七千、小、村切、方

配中、合按、は、一段、原、中、人、数、男、女、共、十、万、程、と、記、す、が、お、お、中、の、記、す、た、れ、も、没、存、と、疑、有、り、一、十、二、月、と、改、也

一十二月廿日、城攻、時、存、為、御、後、法、取、場、に

存、る、委、家、事、不、存、二、月、之、日、城、攻、後、

極、月、晦、日、晚、能、知、中、の、存、る、城、中、其、心、仕

罷、立、右、強、防、城、中、自、原、死、人、廿、七、人

一三月廿一日、夜、討、後、大江、口、より、松、平、在、御、御、後、

千、四、百、人、寺、澤、兵、庫、以、殿、多、一、百、人、二、九、出、九、鍋、家

信、濃、寺、殿、多、一、千、人、三、九、と、り、五、拾、人、立、花、飛、弾、寺、殿、松

倉、長、門、寺、殿、仕、廻、一、百、人、中、城、中、小、原、死、人、四、百、三

拾、人、は、内、百、三、拾、二、人、城、中、引、取、中、此、時、存、在、御、御、作

事、矢、文、に、依、り、存、在、否、を、不、存、也

一城中銃炮の數五百三拾挺玉薬三月末より切し中
右打ち中これ併少の者廿七有、打ち中

一城中に米二月十日江より切し中、諸物運送付
乍去ゆ、打ち者も少く、

一城中、籠中浪人四拾人、序年以五六十の者共、
日序軍の互敵に、諸物足斗指引付れ、彼浪人

何方より、今按ル、此段
玉露叢書の七

一所、籠城、浪人、四十人、右、内、一年、未、四十、計、男、成、程、軍、手
ダテヨリ、敵、強、弱、ヲ、知リ、諸、事、軍、術、功、者、ニ、テ、候、此、浪、人、何、方、ヨリ、参、リ
候、ニ、籠、城、仕、候、ハ、其、在、所、誰、ニ、存、セ、ズ、
候、事、ト、有、リ、此、説、実、ヲ、得、ル、ニ、似、ル、

一右邊門作候の家老、仕玉薬の役、矢文、其外、あり、中、指

引仕候事

一西郎本丸より、碁を打罷在、處、瑞象殿、極樓より

石火矢系、四郎、左の袖を打切、玉より、傍に罷立

於男女五六人、打殺、中、城中、若者在、所、名、卷、より

頼母、友、在、より、孫、四郎、左、丈、一、銃、炮、に、向、り、之、上、側、に

罷立、者、多、く、之、中、事、不、吉、に、仕、合、力、は、由、皆、心、弱、に

在、極、樓、より、打、中、銃、炮、多、分、より、是、中、若、者、履、死、人

多有、いの由

一右邊門作在、候、仕、合、在、付、テ、心、も、勇、に、ふ、中、則、有、馬

左邊門、佐、屋、より、度、矢、文、より、仰、越、候、に、普、代、考、

俄く官城中より自立仕る此夜忠節は仕れ有ら仰
越後石丸と存同心は付廿一日我亦請取し場三丸より
寄る航引火と掛取取也中其時右馬門作四郎方系
我亦寄る泉城中、系上中火と程ケル早に城中
と羅出濱より船取一先何方にも引退り由
と四郎一中たむる船と廿四郎を生捕るは忠
節よりと存定ら二月十日者通具、左馬門佐屋
矢文射中、慶見付是く廿一日の自去合ふ中、不
審、存、慶、左馬門佐屋より矢文と廿一日之魁中射は
成るは城中、者見出、其文、廿一日の矢文進くは見

付と成る、存、苦お遠中、百重テ日限相定又矢文
射可中、自と仰、我亦と城中、者見付不審と立四郎、
中、自、右馬門作と程と相見、中、我亦、
松山、一、置中、廿一日、大、口、斜形、我亦、女、房子、共
波切、我亦、我亦、我亦、羅、廿、台、我亦、城、
小、原、右、近、原、衆、見、出、既、切、り、是、と、仕、と、左、馬、門、作
及、矢、文、と、見、せ、中、自、命、助、り、生、捕、不、思、儀、命、助、り
中、我亦、以上

宣三月十七日

山田右馬門作

最城以後の仕置次第

一 葛原山城番在凡小笠原吉岐守二凡久留葛丹波守
以目附下曾根三十郎能瀬四郎在葛丹波立城
一天草山城番松平之親以伊藤大和守令立城
一 松平伊豆守令下知同三月朔日原の古城本凡
石垣を割崩す小笠原信清が松平丹波守有るを
佐寺澤兵庫頭自前、請取也徒黨、頭穿鑿有馬
玄蕃江山獵細川越中守滔多信濃守黒田兄弟三
人小笠原右近太夫立花元弾守水野日向守自前
新

一 三月上旬伊豆守左門天子長崎へ打越仕置申付

文より肥前名古屋唐津の筑前國福岡に順見其後
豊前國小倉と帰上同四月六日輝細日記より上使太田
備中守資宗此所下向四り上使上意趣述九州諸大名右
小倉一馳集り下向と承不承後伊豆守左門江天
帰名

三月中旬より九州諸大名各取城松倉寺澤木下下
四月中旬江天に到着

一 松倉長門守同右近と由系森内記長継の預けと成
一 揆り始末は遂に穿鑿し寔領内常に不仕置に付加搦
に俄令出来天下に騷動仕出しかば不忠と至然に思召
長門守儀四十二歳に死罪と仰付右近儀死罪

罷成田教免保科 肥後守正之より預け成山長門守屋
為關所被仰付

一若長門守死罪之帝為檢使阿部四郎五郎野瀬治
左馬之仰付内記下屋敷一羅越長門守下屋敷之
京相之系相系相之出之と誅之長門守家人
岡田作右馬の大明権之助兩人共之常之佞好之若邪欲
深之長門守氣入之出之程之悪事之仕之長門守
常之不仕置之張本人は兩人之假眾科之明之未極
之是感人打首之成敗之仰付長門守屋敷卷關
所之仰付右四郎五郎右馬の兩人為之の卷之關所水

一松倉長門守死骸取納者無之所之新系者之野部治

^{在馬}

之者有之是之元東南都春日社人打之常之長

門守惡意之學之今度合戦之刻初之奉之利發者

在長門守之 上使之取次役之付置毎日 上使

之陳露相詰機好之何方端受其意識之所正月朔日

之城攻二月廿七日之落城何我治若馬之柄之拙武功

有之同百度之目付之一等之賜之則兩通之

写右之記之就所之及之入下之長門守被誅之假承

而之彼死骸之精芝之金地院之火葬之諸人

感入

一長門守家来子内藤瀬之助中若小姓与心ある
君仕長仰守より金子三百兩預り江戸赴く時最早
長門守と殊に板倉次郎承し有る取に返上るる
所司代板倉周防守方より板倉一守中若小姓人日蘭
所より仰付るは金子拙方子折るは板倉何より
官指告中若由の中と周防守殊に感入るる其金
子女は老る心次若仕振ると中付る瀬之助香由り
より三夜頂戴仕支より有る空野大徳寺の昌林院に
系と右三百兩の金子を板倉長門守重次永代
菩提を吊り振ると頼入昌林院に秘し少何存る

の支配伺は苦く由りてと多助永代はちる長門守
菩提と吊り振ると頼入昌林院に秘し少何存る
信儀と板倉周防守の出入り信儀野村治右衛門板倉之水
正家来子内藤瀬之助中若小姓与心ある
一寺澤之庵に堅高名の下仕主右今夜天子表一檢取起
一調法玉極て儀也併し多言遠路隔絶崎の仕置し事
上長門守より少若小姓と事其廿二と夜お家京表より後
共働能く死罷儀と事其廿二と夜お家京表より後
上と君出ても存飲回ある事其廿二と夜お家京表より後
津領八条石居城共と下置り立置り後之庵に堅高名

心於法草海禪寺令切腹自害中
一 鋤島信濃守并榊原飛彈子同左馬之依之度於島京
表宵軍法 上使之先乘信版由大津連宵之付
閉門彼仰付之程成也免上出

一 野村治右衛門成壯、宣武通
今度肥前國於高久郡島原表吉利支丹一控有馬市
城取立楯龜、付去朝日責之砌北三、丸是坪下白晝
刻以銘突合、此類傷或乃者也
寬永十五年戊寅正月九日 石谷十藏
真清判
野村治右衛門

二月廿八日肥前國高久郡有馬表莊城、刻有本丸未
右島明吉利支丹徒黨、上出石、以款傷、去三月朔日、兩
余部、於、拵、段、入者也

委細之寬永十五年戊寅三月廿一日
板倉重矩判
貞享乙丑秋八月下旬於江北、小陽、真清判

野村治右衛門版

一 板倉由膳正重昌、治目、行、去、五、千、石、內、在、島、石、之、地
領、之、水、依、重、矩、跡、五、千、石、次、男、甚、右、郎、重、直、之、下、之、本、領
三 海、中、島、店、之、智、之、版

三... 時... 國... 一... 今... 城... 於... 陽... 萬原記錄卷

跋

右島原天草一揆發興御退治之事家之傳記十
余部集覽之又松倉長州之猶子藤堂平右衛門方
委細之物語承知之數年會議之上撰記之者也

貞享乙丑秋八月下旬於江北小陽遠山信春誌

[Faint bleed-through text from the reverse side]

真享山正保八月丁酉... 本國之味... 余時集覽之... 本島氣天草一... 萬原記卷上

息距編卷之二十

平賊第四

鳥原記卷上

紀伊國鳥原吉村支丹一換初卷... 一九州紀伊國吉村... 子其江戶在宿也... 以す... 支丹宗門... 法人...

島原始末記作山田

此のいのは村に百姓あり斗余り家門のとりを信
代友山内小右衛門の息なり助父子也。そは口は
右馬の遊好と出をす付急立帰親小右衛門は由
中小右衛門の屋に呼急出のちかやけんは金波而行
暫みる帰る何と申るも時入ふ中は大勢の若らあり
取捨世々との小右衛門を結ぶ事能ふ事付未代
友安井之右衛門近江に居る徒合のため小右衛門は
才の多しを徒合とほむ坊のふりあり高京の改方と
京老の取捨を好む中京老中付代友不頼しおる事
赤根赤之先業燈の信と云は友人互の密柑をえり也

江戸に巻く申の旨は信と云ふ所及び加ふ事
其の山四方由他と云ふ者も寺扶持の立所には波
下尾の右友合而來取近他の百姓も皆吉和支
丹室の立陣代友の制しし月代友を教へり格
子に百名を急鳥京に陣取りて籠りて中又は
信の代也と云ふ日來念此は信の代也と云ふ
先ハ金波の中は先は愛えり市座のりも取捨信の中
市陣の信は信と云ふ事也。夏早來り高京の山切
をた取中へ陣取りし市座内中は信と云ふ事也
て是ら書を立る市陣の信と云ふ事也。赤木遊惑うはる事也

の屋を葉内者とし、津田山へ入る由事の中、有る人等也
のめ原葉内者とし、津田山を過て、相討あり、在り、出
まらぬ、め原等は、互に相打ち、代友村田、他、他、等、也
去方、通らざる、急、返り、入る、由、事、中、
相討、前後、の、儀、を、上、海、江、に、相、代、友、白、石、市、印、の、儀、に、お、ま、金
方、事、に、儀、合、仕、の、中、と、も、返、り、入、る、由、事、の、城、十、月、廿一
日、よ、ゆ、方、と、も、返、り、入、る、由、事、の、儀、に、代、友、共
相、討、事、中、十、月、廿二、日、家、老、大、家、中、
支、丹、字、の、儀、に、由、事、の、儀、に、相、討、事、中、
、事、の、儀、に、相、討、事、中、

矢、建、相、方、事、中、系、若、大、江、源、等、系、若、系、若、系、若、系、若、
人、の、若、若、古、小、西、抄、付、事、系、人、等、
郡、大、矢、建、子、原、の、高、居、住、り、近、事、
母、居、住、り、近、江、の、土、民、を、系、若、言、度、在、
上、付、浦、日、一、人、の、儀、に、連、立、
其、時、末、終、事、一、紙、に、書、き、
数、日、及、て、日、域、
を、頃、に、待、人、取、り、
は、事、中、
東、西、に、言、燒、
果

波大江の庭の楓を又よふ時よむ事也亦て学芸を傳
り子の四や下そは年十六果ては法を傳通家
の眞依を窮は才人の誠を以てしりすの如く又と東
り各事をも心せよとす。も誠は古に樹正集に
未承記の語よりふ矣村長有言おと左志木左衛門
と云志ありてしりすの古き繪像を隠すといし
表具仕度と日來内秘すといふとを傳り日を
折るは繪像一枚の内。何者、表具を以ては、園中
に掛て墨依を削りて又て新をむりり為事あり
魚坂の同家此は中を告し徳氏家持の思ひを

依ありて室に群集をなす所を代友は由り関付左志木
の宿へ行て又まは老の男女集り伴乃繪像を遊
唱事とす代友急彼繪像を押取散りに計敗り
焼失す其上馬の内大屋村より吉作内と云人
老家つと棟梁たふ由関付則搦捕鳥系乃城に
成敗す依り一家の老としか振露取の上我亦此
上大ると心る代友林と云宅に押家討殺すは初
郷一起口津の代友山内小左つあ井と云小左村代
友高橋武と云抄押家討殺由り此家には有馬村代友
林と云を百姓を殺中由十月廿五日吹六時

島原記録作前内

之

京城中に江をめぐり居るに家老を尋ね打寄徒合仕
目本新之儀家老知り
千三十三多賀之水家老知り
子石此直人侍三十三人召連
すゝにに舟に乗有る乃沖へ夜半時より余总陸を兄
供へは徒堂に我を家老を尋ね寺に火を付焼立有
馬の港には鉄炮の火繩乃火渡端に野友又一中有
新之儀思ふ所々事な物知れ侍中を我より舟に呼
河に存ある先聞面思ふ中は碇と理察し不知新之儀中々
まゝ河に流し舟を陸上より去は者も不詳討死仕其上船原乃
城一控より取つ中は河急攻詰り上は舟中す七城の用心
計六具を望み陸に押寄進散り中は舟に着侍るハ

新之儀病成所存とすやき中々新之儀合点仕
侍るに世に取つ中は河急攻詰り上は舟中す七城の用心
有馬村と舟に近島原へ侍る来舟は舟乗一控は
起し揺動を極子中舟内物舟を島原指す禮成り舟
新之儀相乗と云早舟より故河急攻詰り上は河急攻詰り
端に人数を立大舟の流式拾本直方立させ大舟河た
世河急攻詰り端の侍中を我侍河に同及しと取
世時徒人の中は加振は者是本に敵ありし不知供町
中急は河急攻詰り舟中侍る侍中二行舟極に立テ
下を中し是通てと舟に碇一控ありし舟出戦は碇分

切ぬけ城に入の事あり手揃ひ取返す所あり討りたる
石梅先づ先小切捨通と下知し事ありことく人数を押
通し事なき城は取明方攻めし彼城は^中先の
振子子存あり老若の新舊弱き故に^中取城し矢倉ヲ明
何し一武具馬具を取^中相又町人の隠居より入る
老年八拾斗成老人は^中是を先使し一安恒村城
所成あり^中味方中、百姓と一味傳ふる事あり
此村は老若の味方^中由中あり先^江深江村へ集りたり
集りたる^中通中の^中区より^中何れも^中新舊の
我々は^中一完結し^中悪口は^中おれ^中大使^中あり

討殺す^中り^中年^中家^中たる^中町人^中事^中取^中る^中是^中討^中り^中由
急立降大息我継家^中あり^中何れ^中あり^中又^中あり^中と^中て
右へ^中取^中申^中候

深江村御へ書

一丑、十月廿六日早朝城内武者多き事^中法^中人^中集^中新^中兵^中
御中^中併^中に^中此^中度^中隨^中ふ^中以^中拵^中り^中其^中名^中申^中上^中八^中幅^中大^中善^中之^中儀^中
し^中思^中儀^中の^中為^中後^中恩^中貴^中可^中少^中先^中依^中帖^中仕^中り^中其^中御^中
し^中善^中惡^中の^中才^中の^中味^中を^中上^中貴^中て^中と^中り^中又^中此^中度^中取^中採^中り^中
為^中之^中事^中未^中未^中あり^中拵^中固^中仕^中り^中下^中知^中り^中肯^中ん^中方^中に^中軍^中
神し^中思^中儀^中何^中事^中切^中後^中す^中付^中り^中と^中申^中し^中老^中人^中共^中尤

この事、いふ事 相州、故に人数を二つに分けて、右の方
は先づ出で、左に跡、小跡、城をさす、と申す、新を信下
知、向、去、去、人、も、喜、く、二、つ、分、り、申、す、相、新、を、信、多、賀、水、大、将
ら、是、程、大、將、五、六、人、組、共、侍、五、六、十、頼、兵、三、百、餘、集、り、深、江
村、の、少、少、方、野、山、等、の、新、を、信、申、す、阿、比、山、を、彼、方、に、一、揆
一、存、中、の、し、て、是、の、旨、是、程、一、回、立、侍、申、す、何、ま、し、馬、を、下
歩、行、そ、人、数、押、し、ぬ、案、山、北、原、の、打、越、小、一、揆、大、子、飯、人
伏、在、多、是、は、方、此、勢、を、又、付、申、す、一、夜、凱、を、揚、げ、銃、炮、ヲ
折、掛、切、掛、り、申、す、是、程、共、銃、炮、一、放、定、打、ぬ、共、銃、せ、き
志、く、掛、り、ぬ、二、つ、玉、打、り、ぬ、し、ふ、成、銃、炮、ヲ、捨、切、り、掛、り、申、す

馬、手、負、死、人、数、多、し、是、の、は、時、進、露、を、信、討、死、相、岡、兵、右、兵、右、
深、手、及、海、に、お、果、中、の、竹、村、新、を、申、す、中、西、甚、く、集、り、負、り、一、揆、共
討、死、数、四、五、十、人、敵、敗、軍、仕、ぬ、深、江、村、に、進、討、り、討、り、申、す、新
兵、隊、中、の、し、か、振、り、は、結、利、の、由、に、先、引、ぬ、明日、多、う、て、波
退、治、の、新、敵、跡、に、申、す、城、一、を、掛、り、ぬ、し、城、内、に、守、人、の、君、城
を、取、り、ぬ、し、も、方、に、先、引、入、り、是、程、冬、を、後、存、内、の、山、目、付、流
一、遂、に、進、進、隣、里、の、加、勢、を、乞、退、治、て、仕、申、す、相、味、方、と、人、も
不、勝、列、死、て、申、す、申、す、武、具、一、色、し、落、ぬ、申、す、申、す、は、て、乃、越、度、人
数、を、九、一、十、し、り、し、し、掃、り、引、て、申、す、申、す、と、申、す、所、小、本、志、る、所
又、一、ふ、り、と、尋、ぬ、ぬ、深、江、村、の、中、に、相、新、を、刻、敵、小、左、の、肩、先、か

右に河をさし下とある長刀を切差をすきしに打込めし所
手原溝にこころひ死在中の引子はれり病い未だ生
山の返り生し能働と諸人共中のみ今小本小右衛門と
中島板倉隠岐守殿に居る相新を信宅市なる板倉
也の部押込尺中の一門原石垣の上へ百姓を石を打中
新を掛子宅市なる石手原能働を以て法入子以
中の一とあり合給ひまゝにして御兵振しふ所しへ患は事
中へ戻さるの方を尺中の一揆に追中神といふたに河
し城一泊りしに付合をて作とて城も世に敵系所を火
掛城の大手門原に押込し門の扉はまゝうりて打込内

入と改め処に建茂が合防中此時本少七と云者能
働の能なる彼破敵敵國に突おし味方し鉄炮を
破れおし堀のさま或屋祿の上へ鉄を突鉄炮を
おし取門外へ敵百三十餘人討殺し一揆不叶に引中
は島原の城の中へ板倉忠良は所を尺立たりあるの城を
は所より築島原の城と号する本郡温泉の山嶽の林原
海邊に堅固の地也されおし為る人等能城能成
付るが勢を信ししに鍋島細川支那の中をあるに江戸乃
事ありしに鍋島信忠が勝茂の爲に信早を前の子能勝
して鍋島信茂田々原に細川越中守忠利あり居

清水伯耆守人数四千八百人犯及自河尻、加吉、共天下北
法授子能隣國、如何振、事終、亦、下、知、國、之、
人数、出、其、後、一、授、其、舟、加、勢、如何、と、遠、之、志、
可、清、西、乃、法、同、付、其、後、府、内、之、各、任、其、牧、師、傳、其、林、也、
此、中、復、進、之、其、人、亦、上、意、ラ、テ、其、進、之、自、是、持、國、を、
之、返、之、亦、加、勢、を、お、事、不、成、之、
味、
本、城、之、入、波、司、心、然、然、
内、輪、
仕、給、
越、
入、と、約、束、中、之、人

使、越、
城、中、
城、中、
一、
合、
中、
千、

附大矢野村、大庄、
一、
受、

越隣國ヲ徘徊宗方をすめ近まらば後の字土郡は在宅
彼の子は四郎と云生年十六歳乃幸有彼方才に
手跡儒学人ハ越徳術を是法民を多ゆりし名譽の者
と沙汰し四郎の古々をまて父子し不承るく天子ハ越
宗方を造る如く所ハ高宗の一揆才より四郎所使立
中は道々不意ハ我府代友を計殺し宗門の一揆徒黨
企つ自今以後宗方の司ハ敢て但下知く申中越四郎
は由すさ何ハ天子の人数を差到し宗方ハ其詞
を認可す天子ハ過半は宗方ハ一味ハ天子録ハ
大失地を津ハ四郎ありと返答も高宗村の人数ハ千

あり有悉其詞連判と調四郎の方ハ派ハ物も高宗
本越軍ハ証定可中と云高宗ハ内大江云在越越お
天子と及馬の古ハ伊島ハ一人遠きハ高宗人亦十八
朝ありは高宗亦人数の五分をす^そ高宗ハ其詞を三
身ハ分高宗亦許ハ比端ハ人数を指長長海ハ使者を立同
宗ハ一味を^そ押寄て放火申中と云と法合も高宗
を今ハ^そ法合島と云亦天子の大也派ハ高宗ハ
云者其高宗ハ中四郎ハ叔父也ハ小なる尤一味ハ一揆の
企を亦依く四郎ハ老母又兄弟を^そ宗土ハ其詞を引越
と云ハ^そ引越中ハ忠利飯内宗土郡ハ内甲

之浦と云所より島を以て一揆先達を紀後よつゆ守護より浦に島人を至る改く搦捕四郎、母見才も悉く捕り就舎と奉り

天学、唐津より加路に事

一天学富島、城より三宅、後清 城代 中島右衛門 七万石

右橋本 四万石 石原 千石 常 千石 吉

天学に民を統所になす表に吉村支丹の門一揆

起り天学乃百姓を以て一味信申之宅、後清より大

驚多あり一揆を社館とて振ひいはる天学、

批、唐津とて思是を忽に指し、

一、大矢野上津浦迄討ち、未多勢より成
一、先は悉く退治せんとす然るに地付亦在る所の
一、其召金に歩卒の者を招き之百姓人銃炮四十挺を係
一、彼西より人とする然るに地付亦在る所の尤も大分
一、之一揆より已に早上津浦迄大矢野千束を以て
一、島柳の瀬より至りて悉く吉村支丹、一味を以て是の
一、何事をも自然一揆に成り及軍に以て城を以て
一、其の事其の中各々府三宅尤とあり然るは是の
一、法と道心の百姓の妻子を人質としは中を棄れ月初

唐津に伝道立く本組に在りしと競争た
忠言を言ふの事ありは家老を許合仕圍成に改定
あり本組に在りし唐津之者共

一 豊崎 治兵衛 子不 組外

一 津本 吉兵衛 子不 組外

一 原田 伊兵衛 子不 組外

一 並河 九兵衛 子不 組外

右支人武者奉行

一 高木 謙仕 一本 子不 組外

一 柳本 玄印 在馬 廿人 子不 組外

一 林 又左衛門 子不 組外

一 並河 又左衛門 子不 組外

一 渡邊 与次郎 廿人 子不 組外

一 小笠原 兵衛 廿人 子不 組外

一 島田 十右衛門 四万 子不 組外

右足輕大將八組足輕百六拾人

一 比 寛永十丁丑正月三日唐津を去り跡口松八里

の海路を回九り三島を經 輕兵子五万斗富息二亀城

船吉利支丹一撥其上津浦近邊に敷多集り舟中由

寸と明日十日富息を云り本元中下上人敷を由し中由

は本元島子三島本元中下の一味の者もあれは組人共

の計策に定り唐津に物向はし不一大事と持口あり

吉利支丹は一味を以て稱し、其の所を以て唐付勢、心を合能
時刻を以ては方上は浦に近進、可なり、其の時勢を押し寄
す、然るに、面々の火を懸て、裡切せしむ、約束もり、然
武家も、諒し、心留あれ、其を以て本戸、島子の者を、人の質
を上は浦に取れ、其唐は勢、是をも、夢も、不若、皆
民を、陣取、其者を呼、割り、振子と問、其に、唐は方の
者を、悉たぬ、其の中、振子は、方上は浦、道のもの、とし
島子、由、不、使、を、越、一味、可、付、さ、なく、押、寄、付、る、を、
し、中、より、し、た、言、様、の、仕、情、を、察、し、今、更、取、振、り、寄、り、
不、議、の、働、に、年、ま、く、も、と、存、り、上、か、る、よ、く、し、其、使、を、
れ

ふ、心、か、た、く、可、れ、ら、す、其、所、同、心、を、島、台、の、返、答、仕、使、を、進、返、を
其、四、免、の、り、奉、り、上、上、付、居、人、と、存、り、取、上、は、浦、の、ぬ、系
付、を、と、越、え、ん、と、ま、り、其、所、に、是、も、極、時、の、り、仕、情、を、
し、島、台、の、心、を、以、て、島、子、の、計、を、以、て、越、り、唐、は、勢、を、
お、り、し、其、の、あ、ら、ん、小、島、子、を、以、り、つ、れ、其、を、一、派、と、也
り、其、彼、地、の、者、を、方、を、以、上、は、浦、の、ぬ、系、に、お、り、れ、を、あ、り、
と、存、り、し、中、各、は、彼、尤、と、時、を、以、て、宅、屋、を、以、り、但、の、付、を
、再、何、九、島、林、又、た、ま、り、同、心、十、中、島、子、を、以、り、是、様、を、
古、搦、形、助、是、様、を、國、枝、は、在、ま、り、是、様、を、以、り、右、部、合、
兵、武、を、余、人、鉄、炮、六、十、挺、を、以、り、十、日、小、島、子、を、以、り、
南

ハコ山ハ海上東西山脈一跡打の跡也小島の上
は浦上一里本戸小島子ハ四里以内ハ一里餘のき干原
阿ノ沙ハ満干之時を竅而あれ七畝方なりといふも傳
ハ味方掛合なき振しあり然るハ本村の石原方ハ馬
不ノ本戸の侍共子息小太刀を使して中ハ一掛共ハ中
越ゆ吉刺支丹家つハ中事てそ通て一可掛共ハ中
押寄討殺て申ふは是ハ後考るハ本戸ハ中事考共ハ
方ハ人数をふせ本戸ハ人ハ中事考共ハ押掛て
謀り可相入れし談合共大に本戸ハ中事考共ハ
中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ

也人ノ左に本戸ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ
七に本戸ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ
也人ノ左に本戸ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ
よハ本戸ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ
組ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ
浦ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ
本戸ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ
中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ
上浦ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ
浦ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ中事考共ハ

浦(江)

是中の唐津勢と討入人と上付浦へ押返る依り明十
字勢と定先と秋原更と及て河内へ細島子兵人数
をせし明末の島より可成掛と浪の島京の考を法火
可掛天草勢の山を押し付け海陸に勢一なり凱を
仰い野原を右巻攻掛らる敵途を失一戦しふ成
法軍必是ありとて救い島京の細入の上付浦の結
陳取扱と明子と定はる山は一月に押寄る小島子の
唐津勢に細入よりと思ゆ可成立し然るに山の上は遠く
の考より入付もとる所考も有し左敵一味のより
あはれも世に海を依りて唐津は勢取扱と元々の

さはくあの上の山より小島子村東ノ口大森の陣より小島子一
度押寄海より島京の一揆を舟よりとりて小島子お上
り東小の一揆凱の勢を上て討く掛る一揆の陣は女堂
に布衣の紙の旗を掲げ日影を式に左右にたせまた
小島子本宿指せり付海山影を敵と見へしは時小島
子の地下人系が家より火をかけ掛る島京の加勢の一揆は
四郎よりなる鬼働に掛る人との道を取切流し西の方
に居る徳本は多勢陣地の旗を旗者より付寺河勢
ふ計攻軍より本戸を指し進し右南の山より柳本
の下へ麓に下りし居る中へ再河九下系林又なるつ月山十郎

其外廿四人の踏込み討死す其餘悉く水戸の敗軍也甲辰徳凱
を仰ぎ是より直ぐ水戸へ押寄せ三宅屋敷に松樹の川に
水戸を渡り龜の川に居たり其本七段に渡りては中
告水戸へ引取られ本敵大勢ありと水戸に居るは渡りては
其の四人の足程大おりの加勢物而一揆の味方と進み水戸の
水戸に居るは鉄炮を打ち若く再河をたたく水戸に居るは
関谷をたたく島田十段をたたく柴田海をたたく五月十日若く人
若く同勢の二三町先にお山隠る海邊に一面鉄炮を打ち
小山隠る再河をたたく海邊には島田十段をたたく其互に打ち
く免す山物もいつれに鉄炮を打ち合ひては或同勢法あり

合戦侍者能く人々と組む一使とせし再相を打ち
二と一人と詰むふ中十段をたたく居り海邊に固原若
兵衛居り中付若兵衛同勢呼ぶ跡に島田十段をたたく居り島田
の古橋を助小島子より引取られ中付若兵衛を同勢呼ぶを
引くとも同勢法に仕る若兵衛中若我未全法にせし
中の中同勢の所は系何れも先づ詰むの由の中は其不敵
引り右左をたたく中時や同勢敗軍侍は是れ止ん
よは追合仕内敵跡を山の邊に追ひ同勢の居り山
の上へ取上り其上本陣の一人として其の相図を手に我
家は火をうけ其後たたく其凱の志をあくる為目

唐津勢葉と相違の事あれど一戦少く不及悉口鬼の方
一敗軍十五人の足指大おせし無是非富岡(川)に
中込太左衛門の本戸の湯場立攻相退り以時本戸を討
死侍老女並河九兵衛千石林又左衛門千石同山十石三宅
後兵衛千石依小左衛門千石川崎伊左衛門四石不
後左衛門百石細川即普徳小栗左衛門は卯者太左衛門毛本孫
才舟小栗お勢より一跡ふ夜の五石富岡(山)あり本戸
富岡菴城の事
一粟月十四日の曉富岡の城一河と海是將大おせ古橋正助
家より合菴城可仕と申合い五人の老女並河右左衛門

渡邊と次まつ関右左衛門崎田十郎左衛門柴田清兵衛は老女
一卯菴城極小古残銀共唐津へ引取す後合侍有五人
人の老女中分おせし然る事原田伊藤五人の老女
居中所余中いれり唐津へ引取す後合侍小い老
の役老就城より仕方尤も我未使し就城に宛り三
宅後兵衛傳言中い老我未其一人兼後合侍なり今日蘇
老付死在妻子取丸山小付是下居古就城の役我あり其
通小由山殘銀共是を聞ゆれし一味仕就城に宛
小右左衛門の老く外小岡崎清兵衛同七石在る河本七郎
兼原田伊藤大竹が舊淺井小庵岡原老兵衛呼子平右衛門

同九段川岩茂の柳本五段をうす也。はるたはる。老本戸
追合の時、富岡花城の談合の時、柳本に死す。
本其場、小居合、少々の柳本より翌日富岡一系はれり。
同前、小傷、小居合、少々の柳本より、城内、せましく、く、く、
世間、小無、隠、要害、堅固の名城也。其上、城内、小大石、火矢
大鐵炮を矢、狭、引、く、に、仕、う、け、金、一、揆、を、其、夜、付、入、り、取、廻、り、
老、後、城、を、疑、ひ、し、も、五、日、延、引、し、り、其、月、十九、日、一、萬、餘、の
人、數、富、岡、一、柳、本、凱、の、聲、を、揚、本、丸、櫓、に、付、我、お、と、ら、し、
と、攻、掛、ぬ、る、と、し、城、内、の、鐵、炮、少、く、二、百、餘、人、忽、被、
討、ひ、取、頭、で、城、を、卷、ほ、く、す、甲、辰、下、知、り、し、指、折、衆、を、振、

重て、亦、其、月、廿、二、日、攻、か、く、る、本、城、に、細、路、を、伊、勢、屋、丸、に、
並、河、右、太、夫、島、田、十、段、を、本、丸、東、の、矢、倉、に、関、善、左、太、夫、
二、の、丸、渡、邊、と、ぬ、ま、つ、小、立、原、齊、兵、衛、四、段、五、十、餘、柳、本、五、段、太、夫、
持、然、交、其、月、廿、二、日、未、明、小、一、揆、を、伊、勢、屋、丸、付、竹、束、を、付、
け、攻、掛、ぬ、る、と、し、十、段、を、其、邊、を、先、途、と、云、手、筒、の、鐵、炮、子、
て、竹、束、を、嚴、密、倒、し、り、敵、數、多、く、殺、奪、付、不、下、付、
糸、車、石、叶、江、取、裏、廻、り、水、の、手、を、取、切、り、百、一、五、日、
城、中、水、よ、か、つ、つ、中、に、は、所、城、を、突、て、出、る、若、岡、原、を、備、二、百、石、
能、傷、討、死、上、月、に、助、討、死、呼、子、平、右、衛、尉、百、五、十、石、是、に、右、太、夫、天、
草、く、ま、の、浦、に、居、り、し、妻、子、を、城、に、入、是、し、突、て、出、傷、

中の古河傳右衛門尉五百石 突て出働ニテ斬手取退兼立
以要を同右九一取十六某の若者是し 突て出手取
て其浅手取傳右衛門尉を肩より退い又もて諸人等
中の浅水谷伊勢守五百石を石抱古川浅水守
取立山近年に病氣川岸茂島 五百石 突て出込本七郎
兵衛突て出手取中より退い働取一揆寺追拂城を堅固
不持中取一揆寺不叶向の地有馬の方、橋下中、寺沢兵
庫氏忠高取取立江戸あり、領分天草より一揆寺
起のよし、違上岡急法、海給夜を日下、強古國、走り下
り天草一押取り、在この仕立被中付る

嶋原の内於三倉杉原谷坂杉倉元一揆寺よ被追至り
一嶋原より半里程北の方三倉村の百姓共あり方、一味方
可なり有る、舟中へ入鐵炮玉薬と後狭間を守
りせ、高あり彼者吉利支丹一味取大筒の狭間をとり、鉄
炮を取進まず、又付残ひ者三十三人搦捕成敗、皆一揆寺
三倉村の後山の上、旗を立て居中、是、三倉村の内杉谷
と中、交り取納り米穀の城中、を、お儀中、足持大将
を遣儀を立て置、米と城中へ取入、御、法合一決、
是、足持大将十人余一、御、足持廿人宛百連、五月十二日杉谷
一取む、儀を立て置米城中へ取入、中、一、只一揆寺山の上、旗

を立少し不構條より望みし又右の通に仕米を入らむ世
敵一圓不構條より味方陣に押し入り是れ三倉村に
押し入り味方を能く見渡しし山の頂を少し不動眼
廻り林の中より人数を下り三倉村に凱を奉り味方の
備所を奪り中より足利大將敗軍中を馬の付に被押
立陣邊迄逃中より物崩しあり足利大將も也足利大將入
江よ左衛門高直次郎大夫言橋強攻あり打ち死す
板倉内膳石谷十花崎京表に被さるり
一肥前國島原の一揆土遊り強引天草の土民も一丁年有
馬の古墳に揃え亀ヶ云又同不ひの互城に亀ヶ云其

開武板倉に到り江を橋の末を引くべく不來り
日付為能之板倉内膳正重昌市目付石谷十花
友人のき霜月十日江戸に立極目留板倉居城島原
下谷又法西より目付を没府内は居任有る牧野侍飛
林丹波寺又と崎にて奉り馬場を奪りて乞集り
評議江戸をすはるは終二三千に過る友との不來
い所能に被開存るは二万に餘り其内を奪りて
との候より依之隣國之人數ヲ招き同由のりある
獨島崎又筑後馬支物軍勢急き島原に出陣
ありきとの候より立細川越中守忠利の人数天草

一、出く候也、我同就造寺、城之、鍋島信好は江
戸集勢より、婿男紀伊守元重次男甲斐守也
澄吉万余引、卒し出張筑後久米の城之有馬
吉幡吉幡卒武し、立江戸ありて子息兵部大輔忠郷
八子餘同國柳川の城之立花元輝守茂改し、立江戸
友嫡子友近忠茂五千余、出陣、細川越中守忠
利し父子あり、立江戸友家臣長岡佐治守有吉頼母友
人老万余、天学表一出陣、細川紀後守光利、若年の
以、立江戸ありて其年十八歳、法海路、急紀後一
池下り喜万余、十二月六日天学表一出陣、細川紀後の

軍勢再、寺沢友勢、天草中、一揆、一揆、由
を傳聞小舟、乗島、移、天学、一揆、人し
不居紀後、天学、方、人数、河、渡、本、玉、に、陽、島、原
のか勢、上、天学、市、目、付、牧、野、村、林、丹、波、守
和、平、甚、三、郎、島、原、一、押、渡、板、倉、右、谷、と、一、所、成、初、淡
合、延、二、日、一、揆、流、く、之、い、何、と、て、別、翌、日、物、見
と、上、使、一、里、斗、所、出、了、温、泉、山、近、守、と、折、子
又、尺、合、又、百、場、三、郎、左、馬、江、村、佐、井、村、と、云、是、打
廻、直、子、長、崎、一、月、九、日、中、山、是、長、崎、面、吉、利、支、丹、所、て
多、く、付、白、堅、仕、立、中、付、て、来、上、の、事、立、花、左、近、鍋、島

甲斐子廻り斗言上使元一尺并り交り早に本房り
有る人数石連津中張り及て別攻宅有る不連人
数石連津中張り内後十苑四五日有内談軍法を及
定極月の八日島原北城に有馬表一人数を及出り原の
城の道三筋有花所相合父子是し互江戸成りし時
上下急下り中門守に霜月十四日右近に霜月廿八日
島原下段あり其表互城を及先を及守るは是
江戸先有沼島に及仰付る言成る及由上使元一尺并り
父子許り我未領分を起し一控り候り是是非先を及
仰付候り中門守上使元談合に及り老山子此道

ハ福島濱手ハ相倉勢を押しとの候り温泉口ハ
沼島内諫早冬前沼島安藝濱手島原ハ相倉勢中
道筋一板倉内相倉石谷十苑を押し海上船手ハ沼島内
船三十艘船大船関船等下知也此表ハ沼島元立花元相元
有馬元無部元斗ハ約二万余人数島原有馬村と五里の間
留押りし極月八日九日押寄同十日比り敵城元卷ハ
原の城は白き布旗を懸く立一手くにくらすと云
中を互城をりしり堅固の旗を及て弟元案にお遠き
やうて人信其表敵城を夜討仕をり老一堪りあり
有馬子の子孫味方の地形案内ハ殿と未知陳

元し立花一手の孫皆猥そは彼子村と有り城内其時
分ハ玉葉兵糧し沢山之は隣國のか防て有り哉と存ハ
り又江戸の老種物沙汰有る友子時良尺合ハ事ハ依
原乃城一揆菟城ハ事

一和倉領寺沢領分ハ百姓廿吉利支丹馳集于紀前國
高本郡原ハ城と云古城の元立寛永十四丁丑極月朔日
分著法し十日の内ハ水來或ハ城と名付楯籠彼
城と申ハ東南ハ二方ハ海岸屏風を立ともとくし
一舟を二舟換ハあり西ハ二方ハ岸言ハ其下原田也
一揆ハ其菟城ハ手合すハ本城ハ日ノ下大將天地

四時時貞相隨人ハ芦塚忠志ハ渡邊侍存ハ赤星之孫
一与揚休意今津宗平同右京毛利平太林七存ハ
相竹勘存ハ之宛次郎存ハ久田七存ハ秦村休沢打
田李ハ九ハ松三人ハ浪人前ハ時貞同在子居ハ足程
大將ハ上津浦大内苑忠次有馬龜ハ並時家山田存ハ
作大浦四郎吾郎二子人ハ本丸ヲ堅ハ二曲輪乃大將
ハ有馬掃部頭重正足將大將下津浦存ハ尉清安
葛徳内苑正清子來若存ハ加付佐由存ハ同三平尸
島越右馬子伯人ハ二曲輪を堅ハ同出丸ハ田崎刑部
又乃同三曲輪大將ハ堂崎對馬次家大塚四郎兼是時

今津左邊正則大江源處分津吉茂小有久志門
此老茂之子云云堅む大江口ハ根山小原子、岩口
津上津浦此ニケ村、老茂大矢野三存ハを大將
ニ喜子四百名堅む池尻口ハ安徳木場、老茂六百
余集村太京木場作存ハを大將ニ堅む田尻口ハ
深江ハ老茂五百余人を不知ク堅む武志幸新ハ
有江監物貞次入道志ク休意ト号池田清存ハ光時相
時ハ九合津村代有馬天草玄札以上五人也天草九ハ大將
ニ本戸但馬安正是將大將ハ上津浦之取急種清芝田大
老將次重此志茂四子余ニ堅む使妻ハ只津次良ニ傳

家時千、岩作存ハ正時有江市ハ光嘉芝田ハ茂會津
形初定重五人也普請奉納ハ濱田之吉正為將次小存ハ
京定此兩人奉納ハ二六時中火消道具持セ打廻リ寄
手ノ火矢ヲ消役也夜廻リ昔ハ四鬼丹後安吉拙本
左京ハ時夜ハ入諸手ヲ廻リ法繁ハ眠ヲ戒ニ熱鉄炮二千挺
ハ熱大射柳樹茂ハ鹿子木右馬助時枝集人ハ三人ハ何
モ老將也茂奉納ハ向權ハ楠浦孫喜傳兩人也此外境川
太京森宗意ハ初是子ハ老切ハ老ハ弟談合人ハ内也
都合二万三千余ノ着到ハ以龜城ハ外ハ女童ヲ万余
惣人数三万余揃籠ルト開浦尾ハ小丸山ヲ天草九ト

名を付テ天草の者共請取テ防ク天地四郎ハ肥後國の
者石昔より吉村支丹いりまん乃筋中一未若草成泰
いへとも宗門の奥儀ヲ窮智謀人ヲ越へり其外隣國
乃名有吉村支丹馳集テ筑城す先大手堀ヲ丈丈
せしむ道郷此立止源邊乃木本ありと多路を以切
取長き丈余より堀板出ハ三尺餘りあり立堀言廿七尺
餘りありしひのえ村乃大竹を以志のり尺をか差添り
堀此よりありと厚あり石火矢し通事あり城内ハ坂道
穴道ヲ付往來すり少くあり此矢銃炮やくに立す
板白き布の旗を五間六間ハき本宛ひしと立す

一手くにくるすと云々物木を立二間一ツ宛銃炮
さしを切らハ堀裏に扣ハ堀を糸越者何れも討ら
ぬ用之し古す堀下ハ石礮のため五間より一宛手比
の石大小百餘つて至四間五間に至本宛あた長刀式は
槍を構持口ハ順廻りあり一手宛休ハ二六時中代
り毒也是ハ毒流より矢文あり謀不成極との付是あり
城内ハ小屋し宛ハ板を板あり口舌をぬき火の用心毒二
組宛城内と昼夜廻りあり年を越蓋城すこと云共火
車一度しきく毒の流は古ハ火より出来中の毒のよ
り矢文又ハ火矢為用心目付横目し者ヲ廻し朝夕昼

二三度宛大木四郎打廻り法勢不流なりすゝ式に亀
城の防より中付るに徳人四郎又思ひ付命を抛り候一味
堅城を抱り古今稀あり事あり
極月廿日城攻に及
一極月廿日あし錫島家来と上使元呼敵城浦尾ノ
鼻廿日天草丸出陣と云是ヲ攻取尺中皮と申候有
左より三ノ丸の方を有馬立花相合勢凱ヲ上ケ以て城中
の者三ノ曲輪より方へ付南ノ出丸を錫島元取能はる
三の曲輪の方を叶と上ケ南の出陣を禁ずと法合と
爲ぬ廿日此明七の時錫島元出陣を禁ずと付候

刻迄より此後法不續有云取中車不成陳早午より悪
物頭十人斗付死候是は南ノ方海一流を流中ノ小川
有堤満り不流越漸干り越中ハ能交有は人散
少々川ヲ越陣下不伏居中ハ其刻ハ漸干中有人散
越軍ハ彼お固ノ時刻七の時ハ成立花午ニ凱を上
ケ中左錫島勢南の出陣を禁らんとす此より及法
ハ大勢不續ハ子細ハ其言ハかの小川ハ漸満りてたけ立
ふ中越軍不成内先子負散有出来ハ漸引取中
以立花より三ノ曲輪崩れ人と堰切方付ハ共敵城流き
感味方手負死人三百斗あり是ハ大木立花三才

其外十時吉兵衛佐田清兵衛渡邊次郎右馬倭郎藤兵衛
兼車四三良右馬岡田久右馬小野掃部右馬物部以上廿
八人討死外三手負傷六拾九人斃兵討死手負三百八十餘人有
之左近殿は自身振切く西に思ひ入内より鉄炮發り打左
近刀根殿は玉當りしりて余りまふ中より右引取れり此
時上使より相合し一友度より及使事し立花子一後
誅させし事は一と中末の一と相合し取取ふ中より細
立花路を誅立花子手柄をさせ本座に事しとの後と
相聞ひし所中より面を陳所は事し傷を立し尺合ひ此時有
了右馬倭使事し若山尾立右馬掛付討死付は相平安

藝者使番長谷川久太郎能働手負中より使番河原
相合使は立前にお供は有る事し右に友人抽る指し
比類の事は其後味方より何事し不成の事と文と
射させ色は行有くして少し承引不中極月廿七日を徒
二日を遂にお陳此仕事し敵降故志の事し不承の事し
從上使前控の事

一今度吉利支丹徒黨為御誅伐鳴原表被登向家
中面より友人可任指回事
一友人等下者取掛後堅停止若猥り先掛仕案於

有人去物取可為越度事

付喧曬口福并盤妨狼藉停止事

一徒黨何茂為鄉人之不能收物具付之出立不取留
有之之共不撰其品可為計檢吏

付自乾味方計於有人急度可中付事

右可被去守此肯也

石谷十苑

十二月廿七日

板倉内儀正

今度犯前國島原吉利支丹徒黨誅伐就彼仰付

加勢各可以改定快事

一喧曬口福望可為停止事

一撥不可剪採竹木事

一宿賃并人馬駄賃如決定不出事

一今度島原這為中人返也改停止與功國已後可

有沙汰事

右條、堅可去守此方也

石谷十苑

十二月廿七日

板倉内儀正

元日城攻并板倉内儀討死事

付石谷十苑手負以事

一武州江戸谷、到來、相平伊豆守信經為古代官下

向、由中來、板倉、以、外、廿、日、中、極、月、晦、日、内、儀、十

花想手此者大呼集想攻く談合し付沼高家老あき
 守に内宿し中は時城系崩りり式と共同あき守中
 河さし出地一越山徑く老々一命を焼く出さる由攻山
 へ中内宿陣し外返立し中ハ大勢討死させ為り
 中よき一城を系破下り時あつと冬よ最中よふ
 無理に諸人を殺す中よの事さるきくはと中あき守
 山古尤も我未誤り中よ法攻山さ能いり中由中守元日
 へお攻り守中よ依り法勢へ弱條
 一明七ッ時分り人数出石火夫お次才鉄炮ヲ打せ
 凱歌を上げて了

一人数出の時陣さるりくきし振望す付事
 一大將の外歩立たるべき事
 一相中角取紙左の肩にさるり
 一相言系さいつさいと答へ中事
 一跡鉄炮乃打中よ友事
 一小屋の火をさるり小屋を望み中付事
 極月晦日 石五十花
 板倉内宿
 一右に通る軍法して寛永十二年戊寅正月无日寅刻
 中よ法軍の凱ヲ上ケ敵城堀し中よ法軍勢攻掛り

然も城内はなほ明相ヲ出し其明り少く鉄炮石礮
ヲ以テ打立或は苦火を付堀北外へ抛出し或は堀北上
より鐵ヲ以テ突大竹を突りし一拋突りし色は揚子河
の防中へ付味方より死人を數を不知りし事あり
不成諸勢付多場と引退内様は手前し人数息之
水へ付自身へ切さき此痛費ヲ拵おみし諸手を
宗廻りし處不知處は熱勢は打立付多場と引退
し堀中へ付相合し事二は掛しし金の再評以て
下知さすし相合し武道の家へ少く取て返し掛
し手負死人三百余人有し其内内様は有馬と部手

は引下知さすし事二は掛しし金の再評以て
下知さすし相合し武道の家へ少く取て返し掛
し手負死人三百余人有し其内内様は有馬と部手
の事変石ヲ打碎き丸の統ノ上ヲ鉄炮を打抜
中有家来死體を引懸け退ケル一揆は城内へ入
大相ヲ討ち存きおひし事出凡し小の方夜討し時人数
了れは江口へ凱を上ケル心は敵突テ出ル心は
熱勢不沙敗軍也 諸家へ付至し使し老寂事内
様傍に相詰れる堀中へ大むかひ跡は至先子へ出討
死也内様前庭へ討死の覚悟と又輝世は
去年此新玉月鳥帽子乃徳を志め々年の阿

ら玉は甲は鉄を志の移り替る世の中を討ち
新玉乃とくし先立咲花は

世はなをのこす先掛志願

板倉内膳正

右の歌内膳正の時立ててい左別と此知音の由
本前、書よく由内膳正の朝十花と申八世万まで
付真かの屋事、吏首とさしらふと誓文、立り
戒木井、真かの屋事、吏首とさしらふと誓文、立り
今朝の堂様仕初儀をてト上、赤木と申、吏首とさし
けられん事、念成るとさしらふ、相石と申、浅黄の四半

に金乃五ノ字の指物、内膳正南北方云、右隔堀
下、若く申、敵十花、徳を切打長身此徳を以十花
く有先不具、是此かつたりの所を突中十花内湯浅
角大吏と云、若く申、敵を突落中、餘り城中、鉄炮撃
く打中、突落敵の首を取中事、不成、右、角大
吏、鉄炮、深く、負、云、七、内、炊、陣、危、言、お、果、以、法
勢、志、と、云、二、度、掛、中、事、し、不、成、成、練、と、云、以、九、十、花
し、堀、下、い、い、し、も、静、と、云、立、退、い、跡、左、右、不、鉄、炮、打
掛、中、事、不、大、形、以、味、十、花、近、り、見、る、也、と、人、皆、意
之、此、時、退、い、法、と、云、に、云、の、能、者、と、有、く、又、是、場

魚友所へ退く者ハ多ク魚友及くは者も直ぐ之を
付遅り退き若くはぬり足車に及く子細先退
た若の陣を及く是場能方へ退く者多し
及く亦相平甚三郎有馬子等十餘人先
死越り無念ありとて堀に及く懸付人処鉄炮是
を打ち不及力と立退く又沼島一子二九一宗掛
及び大敵城内玉葉沢山あり盛く矢程を不悟
射立打立付ふ中陣沼島責口是場魚友存子等
と不成法勢引去る沼島勢引取く勿端辱
討死あり立花一子演義傳と立尺合初掛ふ

子細去月廿日立花一子三九宗掛と中付各
後法寺に付立花後立り元日城責一圍指不
中石谷方へ使を立花存義河とに相掛
無心武と若くは各城を捕り敵原に
落人下りて跡に敵北首捨討て中存源
堅免申す中其日寄り討者先有馬
兵部忠郷來討死し付九拾餘人存義付百七拾
五人斃兵存義死人子百餘人沼島家殺付百八拾三人
討死し存義侍四百餘人斃兵存義人合式千五百
餘人相倉家來討死付七人存義付四拾九人斃兵

小山手負討死三百貳拾七人 相倉右近守付諸軍人
討死貳拾三人 此外佐大者上使、付使者侍三拾四人
討死同手負五拾五人 其日、手負討死相倉四子餘人
記之 城内、謝之手負死人五六十人 ありて、無く、申言
相平安藝守使者小山田内苑、丸黒田右衛門佐使者
坪田徳清、細川越中守使者伊藤十、丸横山介、進
此者共板倉、付有、何、此、款、討、死、相、平、長、門
守使者國司下綱、之、者、名、卷、跡、下、跡、殿、主、退、以、就
共、亦、同、人、是、程、を、只、進、城、下、い、ふ、事、に、靜、に、立、退、以、去、
付、是、程、に、手、負、死、人、數、多、有、之、悉、く、手、負

を、川、邊、に、せ、堅、固、に、引、取、法、人、尺、を、盛、り、惣、勢、外、來
了、内、進、不、涉、川、に、引、取、其、日、に、謝、を、登、程、に、取、
及、別、石、谷、十、苑、を、江、戶、に、返、進、狀、に、云

惣、致、任、進、之、狀、先、以、改、春、に、傳、言、申、上、御、統、
當、地、法、成、敗、之、吉、利、支、丹、一、揆、寄、集、り、以、有、馬、之、城
朔、寅、刻、責、掛、り、板、倉、内、給、法、手、加、下、知、走、廻、以、交、
決、死、當、り、深、手、負、即、中、に、討、死、付、各、決、勢、入、精、
出、し、掠、取、申、上、以、後、先、手、悉、く、手、負、或、討、死、數、多、有、
之、付、今、日、者、宗、崩、申、事、難、成、以、取、決、勢、共、
先、陣、屋、に、引、取、以、次、に、拙、考、に、少、死、手、負、存、在、供、劔

不居成念念、至、此時、以、於、具、之、候、追、可、
上、依、忍、控、謹、之、

寅、正月朔日、石谷十藏

井伊掃部頭 松平甚三郎

酒井潰岐守 松

阿部豊後守 松

阿部對馬守 松

松平伊豆守 松

右、分、之、之、日、城、責、味、方、手、負、死、人、四、子、領、人、
之、以、由、檢、使、板、倉、内、務、討、死、存、諸、勢、寄、託、之、

力、事、不、可、練、斗、以、能、物、之、主、花、有、馬、福、壽、何、連、也、
司、之、堅、固、有、之、在、敵、方、不、敢、討、し、不、居、成、以、也、去、
其、相、折、之、出、於、一、陣、二、陣、切、崩、可、中、以、子、孫、内、務、
討、死、之、事、以、後、也、也、勢、之、十、方、禱、以、後、開、城、中、に、
色、之、評、議、有、之、以、得、共、去、廿、日、之、戦、之、以、後、利、又、今、
日、之、城、責、之、如、此、後、以、之、追、加、味、方、申、者、好、可、
有、之、其、上、敢、討、之、安、否、之、戦、之、以、後、不、入、候、と、云、者、
之、評、議、有、之、言、打、過、以、と、去、開、以、右、之、こと、之、朔、日、の、
手、負、死、人、大、分、有、之、付、味、方、之、力、決、勢、勞、儀、也、
筑、前、比、黒、田、紀、後、比、細、川、紀、有、之、寺、沢、亦、有、之、人、數、

早...出...十...方...申...遣...事

為...代...官...相...卒...伊...豆...守...戶...田...左...門...重...九州...下...向...事

附...隣...國...人...數...少...事

一...松...平...伊...豆...守...信...綱...戶...田...左...門...氏...繼...其...勢...五千...斗...
鏡

正...月...四...日...至...有...馬...著...陣...也...物...勢...競...事...不...大...形...以...西

將...則...懸...陣...場...見...分...敵...城...順...又...也...其...外...近...著...陣

有...元...中

一...細...川...越...中...守...忠...利...同...紀...後...守...光...利...十...八...歲...二...萬...三...子

五...百...人

一...錫...島...信...濃...守...勝...茂...同...甲...斐...守...直...澄...諫...早...豐...前...守

共...三...萬...五...千...人

一...松...平...右...衛...門...佐...忠...之...同...甲...斐...守...同...市...正...共...壹...萬...八...千...人

一...寺...澤...兵...庫...頭...忠...高...七...千...五...百...七...拾...五...人

一...有...馬...玄...番...頭...豐...氏...同...兵...部...少...輔...忠...鄉...八...千...三...百...人

一...立...花...飛...彈...守...茂...政...同...左...近...忠...茂...五...千...五...百...五...拾...五...人

一...有...馬...左...衛...門...佐...同...藏...人...三...千...三...百...餘...人

一...小...笠...原...右...近...太...夫...六...千...余

一...松...平...丹...後...守...千...五...百...人

一...小...笠...原...信...濃...守...二...千...五...百...人

一...水...野...日...向...守...勝...茂...同...美...作...守...勝...重...息...伊...織...十...四...眾

五千六百余人

一松平長門守 五百余人

一板倉内膳同主水 石谷十藏 榊原飛彈守

一牧野傳藏林丹波守 松平甚三郎合八百人

一薩摩勢千人 大将嶋津豊前 喜入攝津守入来

一院石見大将 系山 八千三百人

一諸國使者合上下八百余 薛志映八千三百人

一户田左門式千五百人 五百人 八千人

一松平伊豆守千五百人 斐谷同市五共寺百八十人

都合拾貳万四千余人

右ノ元原ノ城打圍大廻リニ柵木二重ニ結セ諸手此仕
寄場ニ志ヲ了門を付セ敵此入道を右改味方通司
此道場普詰ホ堅固ニ申付日ノ夜ニ仕寄坊東ノ白
責寄セム事

條

一今度為吉利支丹徒黨御仕置我ホ有馬表ハ乃差

越以向兩人無下知城責其外ニ候被申付同友事

一喧嘩口論堅停止事

一押買不可狼籍事

一在陣中人留メ停止事

一於小屋場火本堅可波申付事付馬不取放振可
也中付事

一今度申渡候共急振下迄急度下付事

一若望陣場來諾穿人於立其家中者同意

軍法相背問友肯中定之可差至事

右此方可波お守考也

正月十四

戸田左門

松平伊豆守

原之城繪圖之事
付寄衆陣所之吏

一從江戸之為 上使清使番衆或清使役之流亦之

御傍近之石遣之衆及被差下人殺不換振仕以之

上意之由之度之差下之る 上使衆之本郷庄右衛門

宮本越前守 石川涌左衛門 酒井因幡守

井上筑後守 市橋三四郎 水野藤清門

右之流 上使被參敵味方此様子有一覽其翌日被

歸武江

原之城繪圖之吏

右ノ外敵城を取巻去^登取^下雨降^レリ
大筒小筒石火矢
木惣手木打懸責木海子
黒田取川取押四
鐵炮遠放^レ亦長崎不阿蘭院取
一艘口本舟之般
呼多海子石火矢打多
城内謀
以原人二人打^レ海子
原人并謀^レ加迷惑^レ申
申付^レ頼^レ長崎
下差戻^レ相又高取^レ城無人
成^レ乃^レ水博代小笠原志
守為加取^レ城無人
居^レ荒荒^レ其^レ外^レ表^レ付^レ
浦^レ仕^レ重^レ木^レ堅^レ
仰付^レ左^レ右^レ日半
城内伊豆方^レ矢文
也^レ也^レ中^レ双方^レ
由^レ合^レ文^レ取^レ取^レ取^レ
云^レと

右ノ外敵城を取巻去^登取^下雨降^レリ
大筒小筒石火矢
木惣手木打懸責木海子
黒田取川取押四
鐵炮遠放^レ亦長崎不阿蘭院取
一艘口本舟之般
呼多海子石火矢打多
城内謀
以原人二人打^レ海子
原人并謀^レ加迷惑^レ申
申付^レ頼^レ長崎
下差戻^レ相又高取^レ城無人
成^レ乃^レ水博代小笠原志
守為加取^レ城無人
居^レ荒荒^レ其^レ外^レ表^レ付^レ
浦^レ仕^レ重^レ木^レ堅^レ
仰付^レ左^レ右^レ日半
城内伊豆方^レ矢文
也^レ也^レ中^レ双方^レ
由^レ合^レ文^レ取^レ取^レ取^レ
云^レと

し子細おふ中 其後甲辰、母妹亦姉等相居し内
宇土と云ふ所を 搦捕と云ふ此者とし有るに其臣
不妹を城内へ入る事、越々宗門等無き者より出さず
一命を助る如き、耕作未と仰付し況宗門たる
といふ所何時し所出、門を破りて助て城より由
ち出入りしと謀りし甲辰返りし宗門を無き
者より入る事、宗門へ者も不及し所、宗門
に及し同宗、不成人、由合懸系より其宗門
伊豆守殿と去利支子、由來し可成し此外移
乃依れし中、一國攻め、箇条、搦捕し、城内

と、四郎の妹返り、時新敷饅頭ヲ持出、得共諸人
遠慮して、喰手無し、新敷饅頭城中、立し不
人皆中、彼若共候、肥後國へ、歸り其後有馬左
衛門佐と先地、事、色、才是、波、城
内一揆、内、會津刑部坂部源八郎と云者、其外繪
書、右工門作中、振、何と、手合、左、佐
御一分、少、柄、成、探、可、付、矢、文、内、通、火、法、
其相圖、日暮、火、立、朝、其、凱
を、上、其、時、中、取、中、越、段、

馬手より返りし矢文射中し其矢文餘所し持
口は落中し舟内通顯名大将四郎右衛門監物守時
時擗捕悉成敗傳右衛門作事生木志し付
置中しと落城の時小笠原右近太夫手生捕右衛門
妻子は落城の時相倉手近中しと捕長門守成敗
傳傳誠守門北法紋を以一和傳成事多し極し謀り
しりし一高承列不仕城中し和傳守門し法紋を以
しりし極し和傳守門し法紋を以し和傳守門し法紋を以
伊豆守し急度京殿より由り得共江戶守と
上使を以り其角人取扱ふ極し和傳守門し法紋を以

手上海豆守遠通涼し仕水野日向守父子と居下由
しりし又し極し和傳守門し法紋を以し和傳守門し法紋を以
内存日向守下向し和傳守門し法紋を以し和傳守門し法紋を以
御到來しし和傳守門し法紋を以し和傳守門し法紋を以
ハ敵ふ素しと城守和傳守門し法紋を以し和傳守門し法紋を以
し和傳守門し法紋を以し和傳守門し法紋を以し和傳守門し法紋を以
曲掃し小倉いりしと和傳守門し法紋を以し和傳守門し法紋を以
丈夫之九小倉一朝し和傳守門し法紋を以し和傳守門し法紋を以
堀原二三町攻守し和傳守門し法紋を以し和傳守門し法紋を以

柵橋を垣上大筒石火矢打ちける折は鍋島より
筑山より石火矢を打ちて阿蘭陀人即座を果す
右門は生場より物打ちくは居る筒板に我は
少くも多かる能はるゝあるも城は不蒙山の折を又
ハ城下を公の御侍は誠大物ある大筒打せたとま
以時居下心得て居る也ぬち揺りけりて攻め
中より河川端より金塔に入穴は城を又打ち河川
より金塔に入穴を打ち鉄炮は薬火を付城中を
焼崩す中より三ノ曲輪へ城入り居る城内は若し又付
内へ穴を打ち廿五鉄炮を打出港を以突き雙方は

負死人ありははりは方に穴は竹束を付中より又鍋島
より出丸の程を堀せむは是し城内よりかえり堀を
仕人糞はありしは城内は是より生れふかのり

二月廿一夜討て事

一城由天草丸の若し大物四郎は中より城を
の者も詰早口は成尤堅固に持詰居中より堀を抽
當り御もはるは上年を越久の筑博を字を川の
中より堀を掘り掛敵のありては中より尤も
忽ち目いれ居る出丸は城は改めし中より尤も
然るの役はたて新藤より突き出は行て居る詰早

口北堀に如く水のよるはるを全北七ツ時分を城
中に汲取ひ時を法炮を子に申し立至其後方のを
汲取はる二三百次第に日暮に及く如後を掘入るを
汲取毎夜少睡れ火槍入るは是に拒討し出た時
そ睡の火を敵又く用心させしきしは謀ありたは
く一ある前も城内に敷子此者其妻をいしすは同音
はさう字門のとあへ扱ひは是に突る出た時城内にお音
敵はあつせしき謀ありしやう扱突る出た時宛
是の健者五人いしし忍を黒田右衛門伏見合の柵際
に石出出ると懸絶を刀にふる人二妻侍は貳子斗

出に城内をとも二ふしして千五百人の先子乃同勢
と定給ふる百人内銃炮百挺持せ殿と定ノ都合
廿勢二千とる斗と切ふおるおるに睡たすきと額
くるすは清巻の上立敵の首もふうれ武器しはる
あひ何もしも喰おらしきとて攻城内守るは妻子もふ
もこれしは自賦を定突る出たは法早口結るし原
中川もは出丸し根あは口もすし入と能申合二月
廿一日初夜に刻斗は月と統也柵際を忍びる黒田勢
一例しは汲る火とるは油印と居るは柵際とて
惣勢凱を上柵を敗し押上は時城内に持ひて

時、命を下させ、地四段、二曲堀、中へ出、下向を
 南、黒田村家へ、妻、若、村、つ、防、之、湯、敵、友
 味、方、負、死、人、其、数、を、志、す、中、に、黒、田、監、相 家老、石
 同、息、依、在、其、つ、即、村、討、死、并、部、早、四、拾、三、人、討、死、吉、田、を、攻
 拵、と、云、大、剛、に、若、其、深、く、負、打、死、其、血、小、舟、八、在、其、つ、京
 吉、三、郎、折、又、大、剛、之、衛、杉、山、又、右、丈、二、神、七、丈、牧、野
 甚、く、近、村、深、淵、大、患、湯、言、兵、馬、浦、地、中、子、磨、く、此、考、其
 先、丈、討、死、其、又、黒、田、市、正、内、に、明、石、控、し、進、吉、四、右、郎
 左、丈、討、死、其、右、丈、四、右、丈、丈、吉、四、丈、丈、少、川、隨、取、黒、田
 池、右、丈、那、正、丈、丈、村、子、負、取、在、陣、中、敵、押、込、り、

折、兼、黒、田、睡、臥、美、作、謀、子、柵、に、子、堀、く、武、吉、掛
 切、り、り、口、侍、り、此、在、在、陣、敵、来、り、不、成、上、黒
 田、市、正、と、云、大、剛、人、取、付、り、其、部、早、以、少、付、り、其
 陣、を、取、て、走、出、向、敵、を、二、三、人、突、伏、手、廻、り、此、小、姓、と、
 子、首、と、せ、或、敵、を、十、丈、丈、此、陣、に、か、け、り、列、考、或
 刀、に、く、切、捨、り、其、子、誓、之、を、味、方、を、追、め、て
 云、市、正、と、云、一、寸、し、髪、を、引、退、去、阿、々、
 折、捨、す、
 一、寸、し、下、告、せ、り、去、付、黒、田、陣、中、に、一、捨、其、折、入
 り、不、成、右、方、方、丈、尺、多、度、以、陣、中、未、だ、連、加、り、兵
 隊、以、右、方、討、死、陰、山、原、在、其、つ、池、田、新、助、折、下、右、丈、

亦三宅差志の、夜討し由を討急掛出御敵を討
之ヶ所蒙底了等の雪恥存を以かゝり頁数多立
しる是又自強防中付夫の鍋島内宅継成其如
秀島四郎左衛門石井九郎右衛門扱云もの生かす追討
死す鍋島陸田村入りしふ來柵際を過し信長
場事し井橋竹束の火を付焼多又子原陸田鍋
島陸田百工てん屋物賣り小倉子舟の町屋少事夫
は火を掛焼立は是の一撥兼火を付可申 支度
は持とけつりかけし、く、面、腰、指、爪、舌、味
方、立、し、舟、の、火、を、付、せ、れ、し、焼、い、た、る、者、可

言昔以信長場へ打入有江口の人數を討取志
めく城内へ惣勢不涉同音に甲斐丸凱頭を取
録凱を奉い夫のいうこと音なく志川中其衣遠
西し油法に寺澤陣陣鍋島陣敵を焼立し由中へ西
陣中陸田の如く付不中へ又伊豆守信紹の諸子に
廻りあしし天子八兵衛岩上角に助と云五人馬田
陣中打廻りし刻夜討し由合ふふお中へ物又の掛強
き共具か叶也紀州大納言辰使若山中作右衛門
と云去去人、即ち夜廻り、因り、又、お、の、れ、
夜討し由合ふ自扱は、河邊、辰、法、家、の、女、使、若、加、換

の時、其の、一、お供中、若くは、内、伊豆守方
 と、指物書付、江、其の、友、伊豆守、本陣、一、供、居、中
 以、身、夜、討、乃、其、中、若、其、以、付、く、敵、城、内、より
 突、り、出、り、其、の、前、廣、く、其、乃、唱、大、勢、同、音、中
 以、之、一、凱、々、拳、振、一、殿、一、弓、鉄、炮、伍、振、入、り、
 一、道、上、か、順、に、引、取、り、一、相、原、本、調、丸、九
 一、水、の、小、火、繩、此、外、の、事
 右、に、其、死、言、談、不、仕、極、也、其、上、昔、より、城、を、攻、竹、東
 を、付、柵、し、木、三、重、に、結、う、り、切、く、出、打、敗、徒
 負、任、事、の、難、成、物、也、古今、拵、成、働、と、は、從、黒、田

睡、鷗、水、即、日、向、吉、勝、成、(物、語、之、)勝、成、此、云、誠、以、不
 惜、命、強、き、働、付、り、吉、利、支、丹、に、越、り、若、身、其、若、外
 一、す、く、ま、く、其、中、に、夜、討、乃、時、敵、味、方、手、負、死

- 一、首、六、拾、四、外、生、捕、二、人松、平、右、衛、門、佐、討、捕、之
- 一、同、拾、五、外、生、捕、五、人黒、田、甲、斐、守、討、捕、之
- 一、同、拾、五、外、生、捕、五、人黒、田、市、正、討、捕、之
- 一、同、三、拾、三、寺、澤、兵、庫、頭、討、捕、之
- 一、同、百、六、拾、九、内、三、拾、式、諫、早、討、之鍋、島、信、濃、守、討、捕、之
- 一、同、拾、五、有、馬、玄、蕃、頭、討、捕、之

一同三

立花飛彈守討捕之

首數合三百拾

右之首島原口之大道筋一獄門之掛

一手負百六人

松平右衛門佐者

外討死三拾八人

一同拾七人

黒田甲斐守者

外討死八人

一同拾人

黒田市正者

外討死五人

一同九人

寺澤兵庫守者

外討死五人

一同百七人

鍋島信濃守一手

外討死三拾三人

一同五人

有馬玄蕃一手

外討死貳人

手負合貳百四拾貳人

討死合九拾七人

手負討死合三百三拾三人

右之二月廿一日乃夜味方自負死人如以諸陣

其杖の噪不大形以細川流仕寄場演子之
方角遠い故子逢不中は後陣へ前へ先手傳
返中付於以子之逢不中は事已上

同音負合類負四足人

一手負百六杖三拾或入松平右衛門左衛門

一圓立入外計九拾八有通主番羽一毛

一同拾寺人杖三拾或三拾或中雙守者

一同百寺人外計九拾八人雖是計數者一毛

一同拾人杖三拾或三拾或四市正者

島原物語上之卷終人吉新其氣河

其友の語云く人の心は如く
万の遠くを去るも其心は
在りて其心は如く其心は
在りて其心は如く其心は
在りて其心は如く其心は

其友の語云く人の心は如く
万の遠くを去るも其心は
在りて其心は如く其心は
在りて其心は如く其心は
在りて其心は如く其心は

高原物語上之巻終

